

平成30年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業 1 頁

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 3

人財育成及び人材確保

1. 職員研修 4

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業 5

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協活動支援・運営支援 6
2. 地域づくりを支援する事業の充実 9
- ・ふれあいサロン事業
 - ・子どもの居場所
 - ・安心生活見守り支援事業
 - ・歳末たすけあい運動協力事業
 - ・通いの場推進事業
 - ・災害支援ボランティア事業

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実 1 4
- ・いちほら総合相談・生活支援事業
2. 地域生活を支援する事業の充実 1 6
- ・日常生活支援事業
 - ・福祉サービス利用援助事業
 - ・成年後見制度専門相談
 - ・ホームケアサービス事業
 - ・寝具乾燥・消毒及びクリーニングサービス事業
3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実 1 8
- ・いちほらファミリー・サポート・センター事業
 - ・出産前後家事等サポート事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・居宅介護支援事業
 - ・送迎ボランティアサービス事業
 - ・福祉カー貸出受託事業
4. 生活困窮者支援活動の充実 2 4
- ・生活福祉資金貸付事業
 - ・療養資金貸付事業
 - ・福祉資金貸付事業
 - ・応急法外援護事業

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化 2 5
 - ・地区行動計画の策定・推進
 - ・小域福祉ネットワーク連絡会議
 - ・地区社協連絡会

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成 2 8
 - ・人材育成事業
2. ボランティアセンター機能の強化 2 8
 - ・ボランティアセンター運営事業
3. 地域福祉推進体制の強化 3 4
 - ・民生委員活動推進事業
 - ・共催・後援等事業

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 3 6
 - ・老人福祉センター
 - ・姉崎保健福祉センター
 - ・三和保健福祉センター
 - ・南部保健福祉センター

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期 日	内 容
4 月 12 日	1. 地区社協への新たな財政支援策について 2. 通いの場事業について 3. 各会議体の日程調整について
5 月 10 日	1. 平成30年度第1回理事会及び評議員会上程議案について
6 月 8 日 (臨時開催)	1. 平成30年度第1回評議員会上程議案について
6 月 15 日	1. 平成30年度第1回評議員会上程議案について 2. 平成30年度第2回地区社協連絡会について
7 月 11 日	1. 地区行動計画策定進捗状況について 2. 通いの場の進捗状況について 3. 職員採用について
8 月 9 日	1. 役員研修会について 2. 指定管理申請スケジュールについて
9 月 13 日	1. 指定管理申請について 2. 平成31年度に向けた予算要望について 3. 役員研修会について
10 月 23 日	1. 市社協計画の評価・進捗状況について 2. 平成30年度第2回理事会上程議案について 3. 平成30年度第1回常任委員会について 4. 平成31年度に向けた予算要望について
11 月 8 日	1. 理事会、役員研修会及び懇親会について 2. 平成30年度第1回常任委員会について
12 月 13 日	1. 平成30年度第3回理事会及び第2回評議員会について 2. 会議体の日程変更について
1 月 10 日	1. 平成30年度第3回理事会について 2. 市社協パンフレットについて [市長訪問] 2019年度予算要望について
2 月 14 日	1. 2019年度通いの場事業について 2. 福祉資金貸付事業及び法外援護金事業における条件等の見直し案について 3. 2019年度福祉顕彰事業について
3 月 14 日	1. 平成30年度第4回理事会及び第3回評議員会上程議案について 2. 事務局規定の一部改正について 3. 2019年度各会議体の日程調整について

(2) 理事会及び評議員会

項 目	期 日	議 案 等
監査	5 月 17 日	平成 29 年度分監査
第 1 回理事会 (17 名出席)	5 月 31 日	議案第 1 号 平成 29 年度事業報告の承認について 議案第 2 号 平成 29 年度決算の承認について (監査報告) 議案第 3 号 嘱託職員等就業規則の一部改正について 議案第 4 号 育児・介護休業規則の一部改正について 議案第 5 号 社会福祉基金の取崩しについて 議案第 6 号 平成 30 年度第 1 回補正予算案について 議案第 7 号 指定管理施設の応募について 議案第 8 号 評議員候補者の選任について 議案第 9 号 評議員会の開催について
第 1 回評議員会 (41 名出席)	6 月 21 日	議案第 1 号 平成 29 年度事業報告の承認について 議案第 2 号 平成 29 年度決算の承認について (監査報告) 議案第 3 号 社会福祉基金の取崩しについて 議案第 4 号 平成 30 年度第 1 回補正予算案について 議案第 5 号 役員の選任について
第 2 回理事会 (13 名出席)	11 月 15 日	議案第 1 号 平成 30 年度第 2 回補正予算案について 議案第 2 号 平成 30 年度第 2 回評議員会について
決議事項提案	11 月	決議事項提案 平成 30 年度第 2 回補正予算について
第 3 回理事会 (15 名出席)	1 月 22 日	議案第 1 号 専決処分の承認を求めることについて 議案第 2 号 社会福祉基金の取崩しについて 議案第 3 号 平成 30 年度第 3 回補正予算案について 議案第 4 号 社会福祉法人市原市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について 議案第 5 号 評議員会の開催について 協議事項 市社協計画の評価・進捗状況について
第 2 回評議員会 (38 名出席)	1 月 30 日	議案第 1 号 社会福祉基金の取崩しについて 議案第 2 号 平成 30 年度第 3 回補正予算案について
第 4 回理事会 (14 名出席)	3 月 19 日	議案第 1 号 平成 30 年度第 4 回補正予算案について 議案第 2 号 こどものあそびば設置運営要綱の廃止について 議案第 3 号 2019 年度事業計画案について 議案第 4 号 2019 年度予算案について
第 3 回評議員会 (39 名出席)	3 月 26 日	議案第 1 号 平成 30 年度第 4 回補正予算案について 議案第 2 号 2019 年度事業計画案について 議案第 3 号 2019 年度予算案について

(3) 常任委員会

期 日	内 容
12 月 13 日	1. 市社協計画の評価・進捗状況について

(4) 評議員選任・解任委員会

期 日	内 容
6 月 8 日	1. 評議員の選任について

(5) 役員研修

研 修 内 容	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
役員研修会	地域共生社会の概要と実現に向けた市町村社協の役割	11月15日	五井会館	15名

成 果	【正副会長会】 定例化したことで法人の抱える課題の共有をし、まずは喫緊の課題である財政的な充実を図るため、補助金増額要望を市長へ行い600万円の増額を得ることができた。 【理事会】 発言しやすい会議環境となり、出席理事の全てから発言がなされ、活発な議論が行われた。 【常任委員会】 「社協の見える化・見せる化」にあたり、新たなツール活用などの提案が出され、導入に向けて職員プロジェクトチームでの準備案件となった。
課題・方向性	正副会長会、理事会では、経営者として本会の抱える課題に対する検討を行っていく必要がある。また、研修会は年1回行っているが、施策・制度等の概要の理解に留まっていることから、定期的な研修の場（理事会）を設けるなど、具体的な施策・制度等の内容の理解に努める必要がある。

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の活動・事業への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年2回（町会全世帯回覧）、98,350部を年2回（新聞折込み）により市内各世帯に配布した。

号 数	225号	226号	227号	228号
発行日	5月20日	9月5日	1月20日	3月5日
頁 数	4頁	4頁	4頁	4頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、より見やすく、市民の皆様に役立つ福祉情報を発信するため、ホームページのリニューアルを行い、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

成 果	ホームページのリニューアルを行い、地区ごとの情報発信が可能となったことで、市民にとってより身近で最新の情報を提供することができた。
課題・方向性	広報紙やホームページでは一方的な情報発信に留まり、市民の反応が分かりにくい面もある。また、スマートフォンの普及に伴い、インターネット検索が容易になったことから、これらに対応する情報の発信、提供を検討する必要がある。

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
階層別研修 (チームリーダー研修)	チームリーダーの役割の認識や所属職員の育成等について	4月16日 6月29日	事務局	6名
階層別研修 (ソーシャルワーカー研修)	ソーシャルワーカーの役割を認識し、地域住民や関係諸団体と連携した取組みが進められるよう、資質向上を図る	7月6日 7月24日	事務局	10名
新規採用職員研修 (H30年度採用職員)	社協組織及び事業等、職員に必要な知識の習得	8月1日	事務局	1名
災害ボランティアセンター設置運営訓練に向けた事前勉強会	災害ボランティアセンターの役割と運営の基本について	11月7日	事務局	34名
災害ボランティアセンター設置運営訓練	災害ボランティアセンター設置運営訓練、関係機関との連携強化	11月23日	市原市立五井小学校	29名

(2) 職場外研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
千葉社協職員連絡協議会 階層別研修	共有と協働の職場をつくるための、職場での新任職員の役割について考える	6月11日	県社会福祉センター	2名
社会福祉施設経営実務 セミナー	地域共生社会の構築や生活困窮者自立支援制度との関連性、地域における公益的な取組みについて	7月6日	全社協灘尾ホール	2名
社会福祉協議会活動 ブロック会議	市区町村社協の総合力の向上と組織・事業基盤の強化を図る	7月9日	全社協灘尾ホール	3名
市町村社協会長・事務局 長合同研修会	市町村社協による地域における公益的な取組、今後の社協活動の方向性について	7月17日	県社会福祉センター	2名
地域福祉・地区社協担当者 スキルアップ研修	ニーズキャッチの必要性と他機関・団体・多職種連携について	8月23日	県社会福祉センター	4名
千葉県コミュニティソーシャル ワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	9月25日 11月17・18日 12月15・16日	千葉県経営会館	2名
千葉県コミュニティソーシャル ワーカー育成研修 フォローアップ研修	事例検討を通じた個別支援と地域支援の方法を学び、地域福祉の専門職としての資質向上を図る	2月4日	茂原市総合市民センター	3名

成 果	階層別研修を実施し、まずはそれぞれの職における役割を改めて認識する機会を設けた。また、各所属におけるチーム(所属)会議の開催を促し、まずは業務チェック及び情報共有などを行うため、最低月2回のチーム(所属)会議を設け実践した。
課題・方向性	関係法令等、新たな施策展開や制度改正に伴って、本会の役割が増すことから、各所属におけるチーム(所属)会議を充実させ、職員育成の場としていく。

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種 別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	8,114,461 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積 立 合 計		58,114,461 円

② 債 券

種 別	銘 柄 名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合 計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	258,114,461 円
----------	---------------

※上記の他、社会福祉基金から 50,000,000 円を取崩し、本会の運営資金として貸付

(2) 基金取崩し財源の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0 円	240,000 円	5	三 和	0 円	37,363 円
2	市 津	0 円	240,000 円	6	姉 崎	0 円	41,307 円
3	辰巳台	4,653 円	240,000 円	7	国分寺台	0 円	30,509 円
4	南 総	0 円	19,416 円	8	有 秋	168,932 円	19,302 円
拠点整備費合計：2地区 173,585 円 (H25 度からの累計 6,790,730 円) 維持管理費合計：8地区 867,897 円 (姉崎地区についてはH29 年度分を含む)							

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×11 地区=1,760,000 円	1 地区年額 160,000 円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため、車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	158,112 円 (13,176 円/月×12 回)	コーディネーター支援及び買い物代行として

④ こどものあそびば整備事業における遊具の撤去

児童数の減少やあそびの変化による外遊びの減少及び遊具の老朽化による事故防止の観点から、こどものあそびば設置遊具の撤去を行った。

設置数	撤去費用
10ヶ所	999,000 円

社会福祉基金取崩し額合計	3,958,594 円
--------------	-------------

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協の活動支援・運営支援

小域福祉ネットワークや地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスを行うなど積極的な支援に取り組んだ。

(1) 小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和 63 年 6 月 26 日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市 津	市東第二小学校区	市東第二小域福祉ネットワーク	平成 24 年 10 月 3 日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉 崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	
有 秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三 和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南 総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	内田小学校区	内田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○

加 茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五 井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
五 井	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	
市 原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	
合 計		44 団体（46 小学校区）		実施 34 団体 (36 校区)

小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
H30 度	402 日	6,027 名
H29 度	383 日	6,211 名
増 減	19 日	△184 名

成 果	地区社協や地域関係者と打ち合わせを重ねた結果、未設置であった市原小学校区、京葉小学校区で設立することができ、市内全域(46 小学校区)に小域福祉ネットワークを設置することができた。また、各種会議や事業などに、地区担当職員が積極的に参加し、地域の課題解決に向けた助言や先駆的な取り組み事例の情報提供などを継続的に行うことで、活動分野の拡充に向けた活動支援に努めた。
課題・方向性	法改正等によって、地域に求められる役割と期待がこれまで以上に増しており、地域では負担感が大きくなっている。専門知識を有する地区担当職員が的確な情報提供や他市等の先駆的事例等の提供、担い手の拡充策など必要な支援を行うなどの対応を図りながら負担感を軽減し、活性化を図っていく必要がある。

(2) 地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	ふれあいサロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連携・協働体制づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	●	○			●	○				
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○				○					
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	人材育成事業	○	○	○	○				○			
	災害支援ボランティア事業			●	○	●	○	○	○			

(※●は、今年度から実施)

地区社協における各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
H30 度	443 日	5,299 名
H29 度	315 日	3,939 名
増 減	128 日	1,360 名

成 果	平成 29 年度から取り組んでいる地区行動計画については全地区の策定が完了した。 完了後設置された推進委員会では、計画に基づく地域福祉活動の進捗評価や活動の活性化に向けた検討協議が進められている。また、高齢者支え合い事業(第2層協議体)については、全地区を対象に市内3ヶ所9回の勉強会を行い、第2層協議体の意義や必要性について理解を深めてもらい、全地区にて第2層協議体を設置することが出来た。 連携・協働体制づくり事業では、市内での先駆的な取り組みとして加茂地区にて「加茂地区社会福祉法人合同会議(4施設法人連絡会)」を設置し地区社協と施設法人間の連携・協働体制づくりと地域福祉推進基盤の強化を図った。
課題・方向性	法改正や地域共生社会といった新たな考えが示される中、本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。専門知識を有する地区担当職員が的確な情報提供や他市等の先駆的な事例提供、担い手の拡充策など必要な支援を行うなどの対応を図る必要がある。また、今後、求められる取組みに対応するために地区社協の組織力・運営基盤の強化を図る必要がある。

2. 地域づくりを支援する事業の充実

(1) ふれあいサロン事業の推進

① いきいきサロン

高齢者等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	3 会場	43 日	1,350 名	413 名
市 津	10 会場	92 日	3,015 名	368 名
国分寺台	3 会場	18 日	576 名	190 名
ちはら台	2 会場	22 日	736 名	358 名
姉 崎	2 会場	24 日	1,103 名	502 名
有 秋	2 会場	21 日	345 名	298 名
三 和	5 会場	4 日	101 名	44 名
南 総	12 会場	92 日	2,267 名	404 名
加 茂	1 会場	11 日	449 名	44 名
五 井	4 会場	24 日	641 名	256 名
市 原	7 会場	164 日	3,221 名	1,234 名
合 計	51 会場	515 日	13,804 名	4,111 名
H29 度	52 会場	535 日	14,352 名	4,853 名
増 減	△1 会場	△20 日	△548 名	△742 名

② はつらつサロン

心身障がい者（児）等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
国分寺台	1 会場	6 日	276 名	18 名
ちはら台	1 会場	4 日	85 名	40 名
合 計	2 会場	10 日	361 名	58 名
H29 度	2 会場	8 日	138 名	136 名
増 減	—	2 日	223 名	△78 名

③ 子育てサロン

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	2 会場	147 日	1,222 名	390 名
市 津	1 会場	9 日	260 名	72 名
国分寺台	1 会場	35 日	861 名	256 名
ちはら台	3 会場	149 日	1,022 名	458 名
姉 崎	1 会場	12 日	672 名	156 名
有 秋	1 会場	10 日	456 名	123 名
三 和	1 会場	10 日	293 名	145 名
南 総	1 会場	4 日	69 名	77 名

五 井	1 会場	10 日	707 名	205 名
市 原	5 会場	70 日	1,535 名	472 名
合 計	17 会場	456 日	7,097 名	2,354 名
H29 度	18 会場	519 日	8,310 名	2,976 名
増 減	△1 会場	△63 日	△1,213 名	△622 名

サロン事業 合 計	年 度	開催日数	延参加者数	延支援者数
	H30 度	981 日	21,262 名	6,523 名
	H29 度	1,062 日	22,800 名	7,965 名
	増 減	△81 日	△1,538 名	△1,442 名

成 果	事業全体として、70会場、延べ21,262名が参加(利用)し、子育て家庭や障がい、高齢者の孤立防止及び集い・交流の場として市民の方々に利用いただくことができた。
課題・方向性	現在は対象者を限定した事業となっていることから、地域共生社会づくりの視点を踏まえて、全ての地域住民を対象とした交流の場づくり(仲間づくり)への事業展開に向けた検討・見直しをしていく必要がある。

(2) 子どもの居場所

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	10 日	104 名	111 名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行い世代間交流を図った。(京葉教育文化センターとの共催) 【名称：トイトイ食堂】
国分寺台	3 日	30 名	24 名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。(1月より開催) 【名称：地域食堂コンパス】

成 果	食事等を通じ、子どもたちの健全育成や人とのふれあいを学ぶ機会へ繋がるなど、少子化、核家族化による子育て環境の変化に伴う新たな福祉コミュニティづくりの拠点として地域の方が主導となって実施いただき、先駆的な取り組みとなった。
課題・方向性	全国的なニーズを踏まえ活動への期待が高まっていることから、本会でも行政等と協議しながら活動の拡充に向けた支援方策の検討に努めることとしたい。

(3) 安心生活見守り支援事業の推進

① 安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯などの社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地 区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台地区	113 名	120 名	1,587 回
市津地区	50 名	80 名	600 回
国分寺台地区	63 名	37 名	543 回
ちはら台地区	19 名	28 名	472 回

姉崎地区		7 名	18 名	101 回
有秋地区		25 名	37 名	233 回
三和地区		135 名	91 名	2, 118 回
南総地区		173 名	257 名	2, 652 回
加茂地区		96 名	112 名	1, 149 回
五井地区		96 名	114 名	1, 376 回
市原地区		163 名	225 名	2, 753 回
年 度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
H30 度	34 ネットワーク (36 小学校区)	940 名	1, 119 名	13, 584 回
H29 度	32 ネットワーク (34 小学校区)	925 名	1, 066 名	10, 358 名
増 減	2 ネットワーク	15 名	53 名	3, 226 回

成 果	ネットワーク役員と地区担当職員が打合せや会議等を重ねた結果、今年度新たに 2 校区で実施することができた。また、安心訪問員を対象とした基礎研修やフォローアップ研修など、継続、安定した事業活動を支援することにより、安心訪問員約 50 名の増加(前年比)につながった。
課題・方向性	未実施校区における事業の必要性と意義について関係者の理解を求めていく。また、見守り以外の支援を必要とする希望者に対しては、関係機関等と連携しながら、必要な支援活動に取り組んでいく必要がある。

② 安心生活見守り支援事業安心訪問員交流会

安心生活見守り支援事業関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の見守り活動の充実に繋げることを目的に実施した。(平成 30 年度新規実施)

期 日	10 月 17 日 (水)
場 所	市原市勤労会館 (YOU ホール) 3 階多目的ホール
参 加 者	78 名
内 容	第 1 部 実践発表 テーマ「安心生活見守り支援事業から繋がる生活支援活動」 ・若宮小学校区まんまるネットワーク「安心生活見守り支援活動と生活支援活動」 ・平三地区小域福祉ネットワーク「見守り部会の取り組み ～支え合い・助け合い～」 第 2 部 情報交換(グループワーク) テーマ「お互いの見守り活動について語り合おう」

成 果	事業開始以来の初の試みとして市内の活動実践者やネットワーク関係者を一堂に会し、実践発表や意見交換(グループワーク)を実施した。顔に見える関係づくりの促進と取り組みに必要な新たな視点や役割を再認識するとともに更なる活動の活性化や未実施ネットワークへの意識醸成の契機となった。
課題・方向性	活動者(訪問員)の担い手不足、支援を必要とする方々への情報提供不足など交流会を通じて把握した諸課題の分析や集約を行い、行政等と課題対応に向けた方策の検討協議に努める必要がある。

(4) 福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業の推進

歳末たすけあい運動への協力として、福祉バザー、歳末たすけあい募金を実施した。

① 福祉バザー

地 区	会 場	売上金	寄附金等	合 計
辰巳台	辰巳公民館	269,227 円	7,338 円	276,565 円
市 津	市津公民館	357,172 円	271,990 円	629,162 円
ちはら台	ちはら台支所駐車場	53,690 円	2,818 円	56,508 円
姉 崎	姉崎保健福祉センター	513,000 円	3,200 円	516,200 円
有 秋	有秋公民館	266,912 円	0 円	266,912 円
三 和	三和コミュニケーションセンター	220,655 円	49,900 円	270,555 円
南 総	南総公民館	493,000 円	182,880 円	675,880 円
合 計		2,173,656 円	518,126 円	2,691,782 円
前年比		251,215 円	2,074 円	253,289 円

年 度	会場数	参加者数	支援者数
H30 度	7 会場	2,963 名	660 名
H29 度	7 会場	3,050 名	644 名
増 減	—	△87 名	16 名

② 歳末たすけあい募金

地区名	募 金 額	前年比
国分寺台	366,110 円	△22,506 円
加 茂	147,300 円	△26,200 円
五 井	1,039,291 円	△96,674 円
市 原	692,160 円	△105,270 円
街頭募金	12,000 円	△19,046 円
イベント募金	109,161 円	△6,741 円
合 計	2,366,022 円	△276,437 円

成 果	近年では、各地区で献品の数が減少傾向にある中で、役員や関係機関の努力と協力により福祉バザーの売り上げ、寄付金が、前年度比 10% 増となった。
課題・方向性	バザーに代わる新たな財源確保策について検討していく必要がある。また、募金については減少傾向にあることから、募金増額についても検討していく必要がある。

(5) 歳末見舞金配布事業・地域福祉支援事業の推進

歳末たすけあい事業の一環として歳末にあたり、だれもが明るいお正月を迎えられるよう、ボーダーライン世帯に対して見舞金を配布した。また、歳末の時期に支援を必要とする方々が安心して暮らすことができる地域社会づくりの取り組みを推進するため、地域福祉活動を行う団体に助成を行った。

内 容	事業実績 (H30 度)	H29 度	前年度比較
生活困窮世帯見舞金	2,040,000 円 (1 世帯あたり 8,000 円×255 世帯)	2,248,000 円	△208,000 円
地域福祉支援事業	1,445,000 円 (37 団体)	1,365,000 円	80,000 円
合 計	3,485,000 円	3,613,000 円	△128,000 円

成 果	歳末の時期に地域住民の交流促進及び地域福祉活動への理解促進を図ることを目的とした地域福祉支援事業を 37 団体 (2 団体増) が実施した。
課題・方向性	地域による日常的、継続的な支援につなげていくために、金銭的な支援 (歳末見舞金配布事業) から事業による支援 (地域福祉支援事業) への移行を進めるとともに実施団体の拡充を図っていく。

(6) **新規事業** 高齢者通いの場推進事業 (市原市補助事業)

高齢者を中心とした地域住民が日常的に交流 (社会参加) やふれあい、介護予防の場となる「通いの場」(月 1 回程度) の推進を図った。

地 区	会場数 (申請団体数)	開催回数	参加人数 (延べ)	補助金決定額
辰巳台	4 会場	40 回	760 名	537,233 円
市 津	2 会場	20 回	366 名	241,740 円
国分寺台	5 会場	65 回	731 名	806,550 円
ちはら台	14 会場	161 回	2,238 名	1,968,383 円
姉 崎	10 会場	108 回	1,798 名	1,487,040 円
有 秋	3 会場	13 回	275 名	362,214 円
三 和	28 会場	180 回	4,261 名	4,212,086 円
南 総	19 会場	191 回	2,670 名	2,915,600 円
加 茂	6 会場	36 回	429 名	830,540 円
五 井	5 会場	54 回	1,304 名	890,272 円
市 原	65 会場	988 回	13,609 名	10,601,119 円
合 計	161 会場	1,856 回	28,441 名	24,852,777 円

成 果	市内 161 会場で「通いの場」が実施され、高齢者の社会参加や介護予防に資する活動の拡充が図れた。初年度ではあったが、延べ回数 (日数) 1,856 回、参加者数 28,441 名であり、多くの方に参加いただいた。
課題・方向性	週 1 回の通いの場事業への移行促進を目的とした、高齢者通いの場推進事業が終了となる 2019 年度中に、週 1 回の通いの場事業への移行が難しい団体等への支援策について市原市と協議していく必要がある。

(7) 災害支援ボランティア事業の推進

災害にも強い地域づくりに向けて、地域特性に応じた防災・減災活動（の学習）に取り組んだ。

地区	開催日	参加者数	支援者数	内 容
南 総	8月26日 10月28日	109名	29名	身近なものでつくる防災グッズ制作、災害についてのパネル展示による啓発活動行うとともに、地域住民を対象に「防災力UP講座」を実施し防災に関する意識醸成を行った。
国分寺台	9月4日 12月18日	571名	44名	公益社団法人SIL災害ボランティアネットワークから講師を招き、中学生を対象に避難所運営ゲーム、簡易トイレの作成などを実施した。
姉 崎	9月22日	42名	10名	地区社協理事や一般参加者を対象に、地区内のリスクや自主防災避難所での活動について講座を開催した。
有 秋	11月10日	33名	7名	NPO法人ゆかいな仲間たちから講師を招き、町会や小域福祉ネットワーク関係者等を対象に避難所運営訓練を実施した。
ちはら台	2月9日	42名	42名	地区社協、自治会、自主防災関係者を対象にDIG訓練を実施し、地区内の状況把握及び防災に関する意識醸成を行った。
三 和	2月13日	23名	5名	地区社協理事や一般参加者を対象にDIG訓練を実施し、地区の危険箇所について再認識を図った。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
H30度	6地区	8日	820名	137名
H29度	4地区	4日	287名	39名
増 減	2地区	4日	533名	98名

成 果	今年度、新たに2地区（姉崎地区、ちはら台地区）が実施し、災害に関する講義・体験を行うことにより、災害時における住民同士の「支え合い、助け合い」の必要性や重要性について意識付けを行うことができた。
課題・方向性	災害時を想定し、平常時からいかに住民同士の「支え合い、助け合い」の活動につなぐことができるか、住民意識の向上を図っていく必要がある。

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実

(1) いちはら総合相談・生活支援事業

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年 度	生 計	職 業 生 業	教 育 青少年	障がい者 福 祉	冠 婚 葬 祭	療 養 健 康	生 活	その他	合 計
H30度	492件	3件	173件	16件	3件	17件	101件	58件	863件
H29度	407件	10件	117件	13件	6件	31件	120件	59件	763件
増 減	85件	△7件	56件	3件	△3件	△14件	△19件	△1件	100件

※各種貸付事業、ファミリー・サポート・センター事業、出産前後家事等サポート事業における相談も含む。

(2) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関などへのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	10 日	3 名	20 名	日常生活上の悩みや困りごとに対し、地区住民が身近に相談できる場所を提供することを目的し、辰巳公民館会議室にて毎月第1日曜日 13 時～16 時に開催。
市 津	64 日	6 名	128 名	毎週月曜日と水曜日の午前中、拠点を活用した相談支援活動を実施。
国分寺台	239 日	239 名	447 名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	232 日	20 名	232 名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週 5 回、10 時～12 時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月 1 回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉 崎	12 日	7 名	24 名	毎月第1水曜日 13 時～16 時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有 秋	47 日	3 名	82 名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎週月曜日 10 時～12 時に公民館にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三 和	55 日	12 名	190 名	会食会や茶話会、子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南 総	49 日	5 名	68 名	ふれあいいきいきサロン開設時、南部保健福祉センターにおいては毎週土曜日 13 時～15 時に相談窓口（第3土曜日は障がい者専用窓口）を併設。
五 井	20 日	3 名	42 名	ふれあいいきいきサロン開設時に、五井公民館の一部屋において誰でも気軽に相談に来られる場として開設。

年 度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
H30 度	9 地区	723 日	298 名	1,233 名
H29 度	9 地区	625 日	254 名	1,939 名
増 減	—	98 日	44 名	△706 名

成 果	住民に身近で分野横断的な相談窓口として、本会エリア推進センター、各種事業や機関と連携し相談者の課題解決に向けた体制づくりに努めた。また、地域の相談窓口では、相談者への安心感の提供に寄与するとともに、困難ケースなどにおける専門機関への「つなぎ・橋渡し役」として市民の課題解決の一助となった。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、各圏域（小域福祉圏、中域福祉圏、エリア推進センター圏、基本福祉圏）の役割や機能、関係機関との連携のあり方等を再検討し、新たな相談体制の確立に努めることとしたい。

2. 地域生活を支援する事業の充実

(1) 日常生活支援事業の推進

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

① 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上の課題解決のために取り組む住民参加型在宅福祉サービス等の個別支援活動

地 区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	312 日	1,172 名	1,090 名	辰巳台地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
ちはら台	268 日	268 名	268 名	ちはら台地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三 和	138 日	131 名	410 名	三和地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有 秋	61 日	40 名	109 名	有秋地区内の一部町会にて、一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。【名称：くらしのささえあい】
市 津	6 日	6 名	74 名	市津地区に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 (12 月より事業開始) 【名称：市津 まごの手】

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
H30 度	5 地区	785 日	1,617 名	1,951 名
H29 度	3 地区	653 日	1,952 名	1,376 名
増 減	2 地区	132 日	△335 名	575 名

② 事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り組みとして部分的に支援する活動

地 区	開催日数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	24 日	272 名	48 名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月 2 回買い物ツアーを実施。
市 津	24 日	524 名	112 名	65 歳以上の一人暮らし高齢者、65 歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月 2 回買い物ツアーを実施。
有 秋	12 日	180 名	12 名	65 歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月 1 回買い物ツアーを実施。

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
H30 度	3 地区	60 日	976 名	172 名
H29 度	3 地区	63 日	1,044 名	154 名
増 減	—	△3 日	△68 名	18 名

成 果	住民参加型在宅福祉サービスが新たに 2 地区（有秋地区、市津地区）で実施され、市内 5 地区で住民相互による支え合い・助け合いの活動が行われ、事業サービスの拡充が図れた。
課題・方向性	地域によって特性や課題が異なることから、現行サービスに限らず地域の実情に応じた個別支援・生活支援サービスを開発していく必要がある。

(2) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

(1) 訪問・相談支援件数

月	利用件数	計画に基づく 訪問支援件数	緊急(臨時) 訪問支援件数	相談支援件数	支援合計
4	42 件	59 件	15 件	121 件	195 件
5	43 件	55 件	17 件	130 件	202 件
6	45 件	71 件	11 件	155 件	237 件
7	46 件	80 件	13 件	181 件	274 件
8	47 件	78 件	18 件	153 件	249 件
9	48 件	63 件	15 件	132 件	205 件
10	47 件	86 件	9 件	161 件	256 件
11	45 件	73 件	10 件	159 件	242 件
12	51 件	81 件	26 件	134 件	241 件
1	52 件	71 件	2 件	176 件	249 件
2	53 件	78 件	18 件	174 件	270 件
3	55 件	72 件	20 件	138 件	230 件
合計	574 件	867 件	174 件	1,814 件	3,085 件

(2) 新規相談・利用件数

区 分	高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計	H29 年度	増減
新規相談件数	66 件	2 件	2 件	3 件	73 件	57 件	16 件
新規利用件数	17 件	0 件	2 件	2 件	23 件	15 件	8 件

成 果	本事業利用相談は増加の一途であり、現在、新規相談対応は1～2 カ月程待機状態にある。昨年雇用した生活支援員（1 名）の育成も進んだことで、対応件数、契約件数共に増加させることができ、昨年度より多くの市民の日常生活を支えることができた。
課題・方向性	精神疾患や寂しさから電話による相談等が非常に多く、その対応に相当の時間を要している。これに加え、度重なる浪費による金銭的問題や過去の借金問題などが急に出てくるなど、緊急（臨時）的な訪問支援も多い。また、相談も1～2 カ月の対応待ち状態であり体制は不十分である。市民が安心して生活を送ることができるよう、切れ目のない支援を行うため、法人後見業務の実施を含めた後見支援センターの設置等、体制強化が必要である。

(3) 新規事業 成年後見制度相談事業（市原市委託事業）

成年後見制度が市民の方にとって寄り身近な制度となるよう弁護士による専門相談を実施した。

【毎月1回、午後1時30分～午後4時30分】

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談者数	1 名	2 名	1 名	2 名	3 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	1 名	20 名

※1 相談者1名あたりの相談時間：60分～80分

※2 1日の相談枠数：2～3名（予約時のヒアリングにより相談時間を調整）

成 果	新規事業として5月から実施した。これまで成年後見制度に関する専門相談が無かったため、パンフレットや社協だより等で市民や関係機関に広報したところ、毎回問合せがあり、予約で相談枠がほぼ毎回埋まった。予約時のヒアリングにより、ある程度の相談時間の調整をしたため、余裕をもって弁護士に相談する時間を設けることができ、市民の課題解決につながった。
課題・方向性	成年後見制度申立書の作成方法、申立作成依頼等、具体的な後見制度利用手続きに係る相談も多くある。このため、弁護士による専門的な相談に加え、申立書の作成方法等、具体的な申立て支援にも対応すべく常時相談を受けられる体制が求められている。

(4) ホームケアサービス事業

在宅高齢者や心身障がい者、母子・父子家庭等で公的な福祉サービスで対応できない家事援助等の支援を必要としている方を対象に、住民参加型による有償の援助サービスを提供し、住民相互の支え合い・助け合い活動の増進を図った。

- ・利用会員登録者 83名（平成31年3月31日現在）
- ・協力会員登録者 45名（ ” ）
- ・活動状況

	利用者数			活動協力会員数			活動日数			活動時間数		
	30年度	29年度	増減	30年度	29年度	増減	30年度	29年度	増減	30年度	29年度	増減
年間計	10名	12名	△2名	10名	12名	△2名	12日	12日	0日	22時間	24時間	△2時間

成 果	前年度に引き続き、福祉諸制度の改正に伴う地域共生社会づくりなどを踏まえ、住民相互の支え合い・
課題・方向性	助け合い活動の活性化に向け、本事業の推進体制の見直しを図ることとする。

(5) 寝具乾燥・消毒及びクリーニングサービス事業

おおむね65歳以上の寝たきり高齢者、一人暮らし高齢者、高齢者世帯及び重度心身障がい者を対象に、保健衛生の向上と福祉の増進を図ることを目的として、日常使用している寝具の乾燥・消毒（年1回のクリーニングを9月に実施）を毎月1回実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	H29度	増減
利用者	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13名	15名	△2名

成 果	前年度に引き続き、民間事業者による市場サービスの充実や介護保険など公的諸制度の改正を踏まえ、
課題・方向性	事業の必要性、役割等の検証を図ることとする。

3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実

(1) いちはらファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かりなど、住民相互（協力会員、利用会員）による援助活動を通じた子育て環境（仕事と育児の両立）を支援するため、いはらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年 度	相談件数（延数）	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
H30度	76件	471名	122名	21名
H29度	44件	420名	105名	22名
増 減	32件	51名	17名	△1名

【活動状況】

（平成31年3月31日現在）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	H30度	H29度	増減
活動内容															
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	20	32	38	21	18	8	1	10	9	10	1	168件	11件	157件
保育所・幼稚園の送り	1	20	38	46	30	17	10	2	10	10	10	3	197件	10件	187件
保育所・幼稚園の迎え	7	9	13	17	18	9	7	9	7	5	1	1	103件	147件	△44件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	5	6	5	6	0	4	8	6	6	2	1	1	50件	89件	△39件
学童の放課後の預かり	0	0	0	0	0	8	4	1	0	0	0	0	13件	19件	△6件
放課後児童クラブの迎え	7	5	11	6	5	8	13	18	6	6	2	4	91件	106件	△15件
放課後児童クラブ終了後の預かり	8	6	11	9	7	4	5	8	8	4	2	4	76件	105件	△29件
子供の病気等の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
子供の習い事等の場合の援助	19	25	22	25	11	21	19	13	16	11	17	5	204件	249件	△45件
保育所・学校等休み時の援助	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9件	56件	△47件

保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件
保護者等の求職活動中の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	0	0	1	2	2	5	0	5	0	0	2	1	18件	1件	17件
保護者等の外出の場合の援助	0	0	1	0	0	3	4	2	2	1	1	3	17件	6件	11件
保護者等の病気、その他休の場合の援助	0	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9件	13件	△4件
その他	2	0	1	11	6	9	11	7	5	7	5	3	67件	17件	50件
小学校登校前の預かり	15	19	19	14	0	15	18	19	13	16	17	15	180件	191件	△11件
合計	72	116	154	177	100	121	107	91	83	71	68	42	1,202件	1,021件	181件

成 果	昨年度に引き続き、本市が締結した帝京平成大学や近隣市（千葉市、四街道市）との連携事業に加え、一般市民を対象とした市民大学講座の活用、市民向け研修会を開催したことで、会員数や援助活動数の増加など、事業全体の活性化に繋がった。
課題・方向性	地区により利用会員、協力会員数に偏りがあるため、積極的な広報活動や市民大学などの講座を通じた協力会員の増強に努めこととする。

（２）出産前後家事サポート事業（市受託事業）

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援などを必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。（平成２９年１月から事業開始）

【活動状況】

（平成３１年３月３１日現在）

年 度		相談件数（延数）		利用者数（実人数）				利用回数（延数）				利用時間（延時間）				
H30 度		44 件		56 名				213 回				401 時間				
H29 度		43 件		49 件				143 回				280 時間				
増 減		1 件		7 名				70 回				121 時間				
月 活動内容		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	H30 度	H29 度	増減
家事 援 助	食事の準備・後片付け	13	14	9	7	7	21	4	14	7	17	25	18	156 件	121 件	35 件
	衣類の洗濯・補修	14	5	4	7	5	13	16	16	9	11	19	16	135 件	101 件	34 件
	居室等の掃除・整理整頓	9	12	11	6	5	16	15	15	7	23	21	15	155 件	108 件	47 件
	生活必需品の買い物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3 件	2 件	1 件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	その他必要な家事援助	5	2	0	0	0	4	2	0	0	3	0	5	21 件	10 件	11 件
	小 計	41	33	24	20	17	54	37	45	23	54	68	54	470 件	342 件	128 件
育 児 援 助	授乳	4	2	2	0	0	3	9	3	0	0	0	1	24 件	4 件	20 件
	おむつ交換	2	4	1	0	0	2	7	3	2	1	0	0	22 件	11 件	11 件
	沐浴介助	0	0	1	0	1	3	9	11	4	11	12	10	62 件	11 件	51 件
	適切な育児環境の整備	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	5	8 件	1 件	7 件
	その他必要な育児援助等	2	1	0	0	0	2	6	10	2	7	0	5	35 件	28 件	7 件
	小 計	8	7	4	0	1	10	32	29	8	19	12	21	151 件	55 件	96 件
合 計		49	40	28	20	18	64	69	74	31	73	80	75	621 件	397 件	224 件

成 果	新規事業者の開拓による支援対象地域の拡充、市ネウボラセンター、子育て支援センター等の関係機関と連携した対象世帯への事業周知を積極的に行うことで、利用件数の大幅な増加に繋がった。 また、育児不安を抱える母親への相談援助を通じ、本事業のみならず適切な機関への繋ぎ・橋渡しの役割を担うことが出来た。
課題・方向性	市ネウボラセンターや子育て支援センター等を通じた事業周知と全市的な支援体制を確立するため、行政と協議しながら引き続きヘルパー事業所の開拓に努め、更なる事業の拡充を図ることとする。

(3) こどものあそびば整備事業（平成30年度での事業廃止）

当該事業については、児童の生活環境の変化や遊具の老朽化も著しいため設置町会と協議の上、全10か所の設置遊具を撤去し、本年度で事業を廃止した。

・こどものあそびば一覧表

No.	設置場所	設置年月日	敷地面積	No.	設置場所	設置年月日	敷地面積
1	権現堂 24	S45. 3. 31	396 m ²	6	櫃挾 290	S55. 7. 8	200 m ²
2	吉沢 238-1	S50. 5. 28	1, 092 m ²	7	田尾 1132-2	S57. 6. 15	1, 000 m ²
3	浅井小向 112	S52. 9. 14	297 m ²	8	山小川 375	S58. 5. 18	1, 000 m ²
4	平野 241	S54. 9. 18	500 m ²	9	馬立字五反新田 2008-5	S62. 3. 16	180 m ²
5	相川 93	S54. 9. 18	1, 300 m ²	10	堀越 60	H 1. 5. 27	580 m ²

(4) 生活支援体制整備事業（市受託事業）

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、地域課題や支援ニーズに基づく多様な主体と携・協働した「生活支援等サービス」の提供体制などを整備するため、調整役を担う「第1層、第2層生活支援コーディネーター（SC）」を配置し、地区社協圏域における「第2層協議体」の設置・推進に向けた環境整備に努めた。

（取り組み状況）

業務項目	活動実績(内容、回数等)	
地域に不足するサービスの創出に向けた地域アセスメント	①関係機関・団体の会議参加 ・地区社協会議参加(役員会、理事会、部会、行動計画推進委員会等への参加) ・小域福祉ネットワーク会議(役員会、定例会議、各地区、市域連絡会議等への参加) ・民生委員児童委員協議会(地区定例会、役員会、市域理事会部会会議等への参加) ・各種関係会議(地区町会等関係諸団体への会議、連絡調整会議等への参加) ②行政・関係機関等との連絡調整(県、市関係各課等との連絡調整会議等への参加)	第1層 SC 47回 第2層 SC 278回(全地区) 第1層 SC(市域)2回 第2層 SC 379回(全地区) 第1層 SC(市域)4回 第2層 SC 137回(全地区) 第1層 SC(広域)1回 第2層 SC 24回(全地区) 第1層 SC(広域)18回 第2層 SC 7回(6地区)
サービスの担い手の育成(元気な高齢者の活動の場の確保やサービスの開発)	①市民活動・地域福祉活動実践者、住民を対象とした研修会 ・第1層(市域)、第2層(地区社協圏域)における研修会等の調整・実施 ②担い手養成に向けた調整・協議(関係部署等との企画調整) ③既存資源の有効活用・新たなサービス開発に向けた調整・協議(関係部署、実施検討地区における調整会議への参加)	第1層 SC 7回 第2層 SC 31回(全地区) 第1層 SC 17回 第1層 SC 5回 第2層 SC 21回(8地区)
サービス提供主体、地域関係者間の連携・協働体制の促進(ネットワークづくり)	①生活支援体制整備事業調整会議の開催(行政担当課との連絡調整、推進方策の検討) ②地域ケア推進会議(第1層)、地域ケア会議への参加	第1層 SC 9回(内2回は第2層 SC 参加) 第2層 SC 16圏域

	③市原市全域及び広域的な会議体への参加 ④市原市地域支え合い推進協議会(第1層協議体)への参加	第1層 SC 11回 第1層 SC 1回
第2層圏域における支援ニーズと取り組み(既存サービス等)のマッチング	①生活課題等の把握に向けた相談支援の推進について検討 ②交流・介護予防に向けた通いの場、サロン、居場所づくりの推進について検討 ③孤立防止に向けた見守り支援等の推進について検討 ④買い物支援/買い物ツアー、外出支援の推進について検討 ⑤生活支援等サービスの展開に向けた住民参加型在宅福祉サービスの実施、推進について検討	4地区13回 11地区111回 11地区116回 5地区18回 5地区27回
その他事業の推進・充実に必要な業務	①第2層協議体の立ち上げ・運営支援 ・第2層協議体設置に向けた地域勉強会(7月～9月) ・第2層協議体準備会等の開催(打合せ会等含む) ・第2層協議体の開催(会議運営支援)※1月末迄に設置完了 ②第2層協議体及びコーディネーター(SC)支援 ・協議体設置及び開催に向けた第1層 SC との事前調整 ③職員連絡調整会議における連絡調整 ④職員研修会(スキルアップ研修等)の開催(四半期ごと) ⑤他市町村コーディネーターとの情報交換 ・県 SC 研修等参加、他市からの視察等 ⑥外部研修への参加 ・全社協主催研修、県社協・県主催研修、市社協主催研修	3会場9回428名参加 11地区41回 11地区25回 全地区 SC 85回 第1、2層 SC 12回 第1、2層 SC 4回 第1、2層 SC 延8名 第1、2層 SC 延40名

成 果	第1層、第2層に配置された SC が連携し「第2層協議体」の設置及び推進体制の構築に努め、平成31年1月末までに目標としていた全11地区社協圏域での体制構築を完了し、3月末までに全地区2回以上の会議を開催することができた。また、設置・推進に向けた地域勉強会(市内3ヵ所9回延428名)や実践者研修、職員研修会を通じ主要な担い手とされる関係者の意識醸成や環境整備に努めた。
課題・方向性	協議体が設置され間もないことから、第1層、第2層 SC が連携し地域関係者と入念な調整を踏まえた運営支援が極めて重要であり、今後も SC のスキルアップのための外部研修や職員連絡調整会議を活用したスキルアップに努めたい。併せて、協議体にて仕組みづくりに向けた活発に議論を進めるため、関係機関や活動実践団体との連携体制の構築にも努めていきたい。

(5) 居宅介護支援事業(介護保険事業)

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

・ケアプラン作成状況

年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
H30度利用者	101	101	101	102	100	98	95	91	100	89	85	91	1,154名	96名
H29度利用者	91	94	95	95	97	103	107	104	105	100	99	98	1,188名	99名
増 減	10	7	6	7	3	△5	△12	△13	△5	△11	△14	△7	△34名	△3名

① 介護予防給付ケアマネジメント業務(受託事業)

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

・ケアプラン作成状況

年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
H30度利用者	20	19	26	23	21	20	18	22	21	23	21	21	225名	21名
H29度利用者	22	25	26	22	18	18	18	16	15	19	20	16	235名	20名
増 減	△2	△6	0	1	3	2	0	6	6	4	1	5	20名	1名

② 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

・認定調査状況

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
H30 度利用者	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3	5	6	45 名	4 名
H29 度利用者	2	2	3	3	3	3	3	3	4	5	3	3	37 名	3 名
増 減	1	1	1	1	1	1	0	0	△ 1	△2	2	3	8 名	1 名

成 果	ターミナルケアにおいて、関係機関との連携・協働を図ることでスムーズな対応が行えた。また、他事業者との勉強会への参加、事例検討会を行ったことで連携の強化や地域支援の意識向上につながった。
課題・方向性	重複した課題を抱えた利用者が多くなり、介護保険サービスのみでは解決できないことが多くなっている。公的な制度を広く知ることや様々な機関との連携を図っていく必要がある。

（6）送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行い、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

①実施状況

・利用者 200 世帯 216 名（平成31年3月31現在登録者）

・協力ボランティア 45 名（ ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	H30 度	H29 度	増減
延利用件数	52	56	59	58	52	43	52	48	41	45	44	45	595 件	630 件	△35 件
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	公共機関利用	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 件	2 件	0 件
	行事への参加	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	5 件	7 件	△2 件
	通 院	52	55	58	57	51	43	51	48	40	45	44	586 件	617 件	△31 件
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2 件	4 件	△2 件

②送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	10月26日（金）
場 所	市原市社会福祉協議会 3階 会議室
参 加 者	一般市民 5名
内 容	説明：「送迎ボランティアサービス事業について」 講義：「安全運転の心得」講師：元千葉県安全運転協会 鈴木洋一氏 交流：送迎ボランティアの会との交流

③送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	12月12日（水）
場 所	市原市社会福祉協議会 3階 会議室
参 加 者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 16名
内 容	講話：「認知症の方との上手な接し方」講師：居宅介護支援専門員 戸村ゆりか氏 意見交換会

成 果	公的・民間サービスの利用が困難な方に通院を中心とする移動支援を延595件行うことができた。また、PR 及び養成講座等を開催し、新規協力者2名を確保できた。
課題・方向性	新たな担い手の確保に向け事業PRを行うとともに、協力者の高齢化に伴う安全面の配慮(年齢制限等)について今後検討する必要がある。

(7) 福祉カー貸出受託事業(市受託事業)

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

① 利用件数

項 目	月	利用 状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	H30 度	H29 度	増減
心身障がい者(児) 及びその家族	件数		4	3	3	3	4	3	7	2	4	4	3	3	43 件	36 件	7 件
	日数		8	3	6	3	4	4	17	2	4	4	6	3	64 日	65 日	△1 日
高齢者及びその家族	件数		0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3 件	11 件	△8 件
	日数		0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4	8 日	20 日	△12 日
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数		1	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	9 件	14 件	△5 件
	日数		1	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	13 日	40 日	△27 日
社会福祉 ボランティア	件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	1 件	△1 件
	日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 日	4 日	△4 日
合 計	件数		5	7	3	3	5	6	7	2	4	6	3	4	55 件	62 件	△7 件
	日数		9	7	6	3	5	11	17	2	4	8	6	7	85 日	129 日	△44 日

②利用内容

項 目	内 容	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者(児) 及びその家族	件数		1	1	37	4	0	43 件
	日数		7	1	43	13	0	64 日
高齢者及びその家族	件数		0	0	2	1	0	3 件
	日数		0	0	4	4	0	8 日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数		2	0	0	5	2	9 件
	日数		4	0	0	5	4	13 日
社会福祉ボランティア	件数		0	0	0	0	0	0 件
	日数		0	0	0	0	0	0 日
合 計	件数		3	1	39	10	2	55 件
	日数		11	1	47	22	4	85 日

成 果	市担当課と連携しながら、市民に向けた広報活動を行った。介護制度や介護タクシー等の充実により、年間利用件数自体は決して多くないが、新規利用者は増加してきている。
課題・方向性	介護保険適用外の利用者等サービスの需要が高まることが想定される中、高齢者の利用割合が少ないことから、引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

4. 生活困窮者支援活動の充実

(1) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、高齢者世帯に対し、民生委員・児童委員をはじめ各関係機関が助言指導を行うことにより、当該世帯の経済的自立と更正意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めることを目的として実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
H30 度	総合支援資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	福祉費	28 件	13 件	12 件	4,566,600 円
	緊急小口資金	204 件	179 件	180 件	8,514,000 円
	教育支援資金	49 件	48 件	45 件	51,661,600 円
	不動産担保型生活資金	3 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	284 件	240 件	237 件	64,742,200 円
H29 度	総合支援資金	5 件	0 件	0 件	0 円
	福祉費	28 件	12 件	13 件	1,894,100 円
	緊急小口資金	178 件	153 件	153 件	7,942,000 円
	教育支援資金	37 件	32 件	31 件	31,669,800 円
	不動産担保型生活資金	2 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	1 件	0 件	0 件	0 円
	合計	251 件	197 件	197 件	41,505,900 円
前年度比較増減		33 件	43 件	40 件	23,236,300 円

(2) 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付けを実施した。

【貸付状況】

年 度	相談件数	申 請		貸 付	
		件数	金 額	件数	金 額
H30 度	7 件	1 件	113,000 円	1 件	113,000 円
H29 度	8 件	3 件	508,000 円	3 件	508,000 円
増 減	△1 件	△2 件	△395,000 円	△2 件	△395,000 円

(3) 福祉資金貸付事業（自主事業）

公的な福祉制度等で対応することができない、低所得世帯を主な対象者として、資金の貸付と必要な援助指導を与え、生活の安定と自立更正を図った。

年 度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
H30 度	応急生活費	47 件	27 件	27 件	770,000 円
	医療費	0 件	0 件	0 件	0 円
	その他	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	47 件	27 件	27 件	770,000 円
H29 度	応急生活費	49 件	24 件	24 件	684,000 円
	医療費	0 件	0 件	0 件	0 円
	その他	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	49 件	24 件	24 件	684,000 円
前年度比較増減		△2 件	3 件	3 件	86,000 円

(4) 応急法外援助

低所得で、公的な福祉制度等で対応することができない方に対し、応急的な生活費として少額の資金を交付した。

H30 度		H29 度		前年度比較増減	
件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
260 件	1,097,890 円	231 件	892,310 円	29 件	205,580 円

成 果	生活困窮者自立支援制度が改正され生活福祉資金との連携強化が図られたことで、支援を必要とする世帯の生活状況に応じ、本会資金と併用した早期の生活改善や課題解決に向けた関係機関への繋ぎや橋渡しを行うことが出来た。また、制度改正を踏まえ、本会資金の根本的な役割等の見直し検討を進めた。
課題・方向性	経済的な課題を抱える世帯の生活の安定や自立の援助に向け、他制度や関係機関との連携体制の更なる強化と資金貸付を通じた本会の総合相談機能の体制構築に努めたい。

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 地区行動計画の策定・推進[地区社協単位]

(1) 地区行動計画策定委員会の開催

地域の特性や課題に応じた地域福祉活動の推進を図るため、中域福祉圏域の推進主体である地区社協が、地域の様々な組織・団体から構成する「地区行動計画策定委員会」を設置し、地区（域）の地域福祉活動を体系化し、計画的に取り組むための「地区行動計画」の策定作業を平成29年度から取組み、次のとおり完了した。

地区名	計画書の名称	開催回数(H29～H30)	策定完了日
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画	4 回	平成30年5月29日
五井地区	五井地区行動計画	5 回	平成30年8月21日
市原地区	市原地区行動計画	6 回	平成31年3月14日
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画	5 回	平成30年4月14日
市津地区	スマイルプラン (市津地区地域福祉行動計画)	5 回	平成30年3月31日

三和地区	三和地区行動計画	5回 (別途、分野別会議開催)	平成30年5月23日
南総地区	南総地区行動計画	6回	平成30年7月21日
加茂地区	加茂地区行動計画	4回	平成30年3月23日
有秋地区	有秋地区行動計画	5回	平成30年3月15日
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画	3回 (別途、WT会議開催)	平成30年3月31日
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画 (国分寺台地区行動計画)	4回 (別途、部会会議開催)	平成30年6月23日

成 果	計画策定を機に改めて地域課題が抽出、整理され、同時に計画策定委員（組織・団体）間で様々な情報が共有され、今後の地域福祉活動の指標とすることができた。また、広く地域住民に計画を周知することによって今後、地域福祉活動の理解と参画につながるものと思われる。
課題・方向性	計画を実効性のあるものにするため、地区毎に計画の進捗状況の管理、検証・評価また、必要に応じて計画の見直しを検討するための組織として「地区行動計画推進委員会」が設置されたが、その機能と役割を明確化し、計画的に会議運営していく必要がある。

(2) 地区行動計画推進委員会の開催

計画の実効性を高め確実に活動・事業を実施していくためには、計画の進行管理を行う組織が必要となることから、地区社協が主体となり、地区行動計画策定委員会委員を中心に構成した「地区行動計画推進委員会」を次のとおり設置した。また、「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催することとした。

地区名	名 称	開催回数	設置日（第1回開催日）
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	1回	平成31年 1月22日
五井地区	五井地区行動計画推進委員会 (五井地区第2層協議体)	2回	平成30年12月12日
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第2層協議体)	—	平成31年 3月14日
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第2層協議体)	2回	平成30年12月8日
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第2層協議体)	2回	平成30年11月19日
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	1回	平成31年 2月19日
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総地区第2層協議体)	2回	平成30年11月25日
加茂地区	加茂地区行動計画推進委員会 (加茂地区社協理事会が機能を担う。)	1回	平成31年 2月24日
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第2層協議体)	12回	平成30年 4月20日 (平成30年11月29日)
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	1回	平成30年 9月30日
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第2層協議体)	2回	平成31年 1月20日

※有秋地区は、H30.11.29より「行動計画推進委員会」及び「第2層協議体」を一体的に開催することとした。

成 果	全地区「地区行動計画」の策定を完了し実行に移っているが、一定期間毎の検証・評価が重要なことから年2回程度の会議開催を予定し、計画化された内容をもとに検証、評価、積極的な意見交換等が行われ、地区の行動計画としての存在意義が高まっている。
-----	---

課題・方向性	「行動計画推進委員会」の機能を明確化するとともに、計画期間を見据えた中で、推進方策、見直し等検討内容を見極め、会議運営を進める必要がある。また、「第2層協議体」と一体的に会議を開催する地区においては、両会議体の役割と機能を踏まえる必要があり、一体的に行わない地区においては相互の連携を十分図る必要がある。
--------	--

2. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

(1) 小域福祉ネットワーク連絡会議の運営

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり開催した。

項 目	期 日	議 題
第1回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	9/19	いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議代表・副代表の選出について 講演「知的障がい、発達障がい児・者の日常生活上における不自由・不便さについて」 意見交換会「地域の生活課題と今後の取り組みについて」 安心生活見守り支援事業安心訪問員交流会について 市原市高齢者通いの場事業について
第2回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	3/1	講演「認知症の人を地域で支える」 意見交換会「地域の生活課題と今後の取り組みについて」

成 果	ネットワーク活動の成果や課題の共有を図るためにグループワークを行ったことにより、地域特性に応じた取り組みを理解し合い、地区を超えたネットワーク同士の横のつながりが図れた。
課題・方向性	小域福祉圏における横のつながりを一層深め、効果的な組織運営や活動展開に関するノウハウの共有を図っていく必要がある。

(2) 地区社協連絡会の運営

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項 目	期 日	議 題
第1回地区社協連絡会	4/20	地区社会福祉協議会への新たな財政支援策（助成制度）の考え方（案）について
第2回地区社協連絡会	6/29	地区社会福祉協議会への新たな財政支援策（助成制度）について 第2層協議体設置及び推進について 地区社会福祉協議体助成金交付基準について
第3回地区社協連絡会	2/28	通いの場事業補助金について 地区社会福祉協議会助成金交付基準に基づく2019年度地区社協補助金積算額（案）について

成 果	中域福祉圏の推進役として、また、市社協と一体となって取り組みを進めるため、地域福祉関係施策の動向や新たな取り組みの必要性や知識について、市社協と地区社協とで共通理解、共通認識を深めた。
課題・方向性	本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。市社協と一体となり、本市の地域福祉を推進していくため、迅速な情報や先駆的事例の提供をしていくとともに、効果的な組織運営や活動展開に関するノウハウの共有を図っていく必要がある。

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成

(1) 人材育成事業の推進

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るための、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地 区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	4 日	353 名	93 名	地域福祉のための人材確保を目的とし地区内小中学校に福祉体験教室、キャラバン隊の公演を実施。
市 津	2 日	55 名	20 名	地域住民を対象に日常生活支援事業についての説明会を実施。また、支援会員に対して実践研修を実施し、会員の理解促進に努めた。
国分寺台	11 日	156 名	22 名	子どもの権利擁護、複雑な家庭事情を考慮した相談支援体制を構築するとともに、子育てサロン事業でのスキル向上と新たな子育てサポーターの養成を目的として「子育てサポーター養成講座」を実施。
ちはら台	3 日	620 名	20 名	ちはら台医療と介護の集い、福祉バザー、高齢者向けコンサートで地区社協活動について紹介し、地域福祉活動への理解促進及び協力者の募集を行った。
南 総	2 日	37 名	10 名	「見守り支援活動」（ふれあいいきいきサロン事業、安心生活見守り支援事業）の協力者間で認知症に対する共通理解を深めるとともに、協力者拡充に向けたスタッフを養成することを目的とし、認知症サポーター養成講座を実施。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
H30 度	5 地区	22 日	1,249 名	184 名
H29 度	5 地区	57 日	1,202 名	527 名
増 減	—	△35 日	47 名	△343 名

成 果	5 地区で184名の協力を得て、1,249名の参加者に対し養成講座等を実施し、地域福祉活動への理解や人材の掘り起こしに努めた。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題である。今後、事業参加者が活動に結びつくようフォローしていくとともに、地区社協と市社協が連携し、社協のスケールメリットを活かせるよう、新たな人材の確保策を開発・展開していく必要がある。

2. ボランティアセンター機能の強化

(1) ボランティア活動に関する相談・コーディネート

①ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動する（されている）方々、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相 談 内 容	H30 度	H29 度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	76 件	60 件	16 件
派遣依頼に関すること	154 件	169 件	△15 件
その他	78 件	120 件	△42 件
合 計	308 件	349 件	△41 件

②登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ			
	H30 度	H29 度	増減
活動回数	10,600 回	9,825 回	△1,223 回
延参加人数	59,789 名	62,897 名	△1,551 名

個人ボランティア			
	H30 度	H29 度	増減
延参加人数	3,992 名	4,870 名	△446 名

依頼に対する活動状況			
	H30 度	H29 度	増減
件 数	109 件	107 件	2 件
延参加人数	518 名	759 名	△241 名

③ボランティアアドバイザーの設置

地域住民が気軽に地域福祉活動や地域活動へ参画するための機会の提供や既存活動の充実を目的に、アドバイザーを配置し相談やコーディネート機能の強化を図った。

設 置 数	委嘱ボランティアアドバイザー 2 名
活動日時	週 1 日程度 午前 10 時から午後 4 時まで
活動場所	姉崎保健福祉センター
活動日数	23 日
活動内容	ボランティア活動に関する相談、助言等

成 果	ボランティア相談件数は減少傾向にあるが、活動紹介や連絡調整等に努めるとともに、福祉施設やイベントなどへの派遣調整、地区社協や小域福祉ネットワーク等の地域福祉活動へ積極的に繋げることが出来た。
課題・方向性	地域福祉活動の推進に繋げるための相談・コーディネート機能の強化を図りたい。

(2) ボランティア活動に関する情報提供

社協だよりやボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センターに設置）で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成 果	ボランティア情報ステーションや市民活動サポートセンターに活動情報を提供するとともに、ホームページでも最新情報を広く市民に PR 出来た。また、SNS 導入に向けプロジェクトチームで検討を行った。
課題・方向性	ボランティア活動を広く市民に PR するため、ホームページ、SNS などを積極的に活用し効率の良い PR 方法や広報を行う必要がある。

(3) ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

①ボランティア登録数

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
H30 度	189 団体	4,657 名
H29 度	184 団体	4,628 名
増 減	5 団体	29 名

個人ボランティア

年度	登録者数
H30 度	147 名
H29 度	166 名
増 減	△19 名

②ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の繋がりや連携づくり機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総会	5/12	市原市姉崎保健福祉センター	平成29年度事業報告について 平成29年度決算報告及び監査報告について 平成30年度事業計画(案)について 平成30年度予算(案)について
V連協会員交流会	5/24	農業センター	会員相互の交流
役員・実行委員親睦会	6/6	竹・いろりの里	会員相互の親睦
夏休み親子体験教室	8/17	市原市姉崎保健福祉センター	“つくってあそぼう” レトロなおもちゃからサイエンスの世界へ！
講演会	10/11	市原市市民会館	講演：「糖尿病漫談（1人でもなくそう糖尿病）」 講師：元県立東金病院検査課長 外口 徳美致氏
袖ヶ浦市との情報交換	1/31	袖ヶ浦市社会福祉協議会	
バス研修会	2/20	建設技術展示館 酒々井アウトレット	V連メンバーの交流を図るとともに、バス内でお互いの活動の情報交換を実施
会報発行	年2回		「いちばらV連協だより」第25号（5月）・第26号（12月）広報活動
V連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・交流会実行委員会 ・夏休み体験教室実行委員会 ・その他打合せ

成果	新たにボランティアグループ13団体、個人ボランティア23名が登録された。また、団体間の交流や先進地での視察等を通じ、ボランティア間の連携づくり活動の強化の機会に繋がった。
課題・方向性	活動者の高齢化が進み、活動停滞や存続の危機に直面する団体も見受けられるため、活動相談機能の充実や情報提供を積極的に行い、元気な高齢者などが地域で活躍できるような機会や場の確保に向け本会地区担当職員と連携したコーディネート力の強化を図りたい。

（4）ボランティアの普及・交流

ボランティアの普及や団体間の相互交流を活性化し、ボランティア活動の裾野の拡大と協働関係の強化を図るため以下の講座等を開催した。

①子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に実施した。

期 日	3月8日（金）
場 所	市原市勤労会館（YOUホール）3階多目的ホール
参 加 者	78名
内 容	講 演「地域で支え合う！これからの子育て支援について」 作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科 教授 坪井真氏 情報交換「地域の支え合いで出来る子育て支援について話し合おう」

②ふれあい・いきいきサロン交流会

ふれあい・いきいきサロン関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の高齢者支援活動の充実に繋げることを目的に実施した。

期 日	3月18日（月）
場 所	市原市五井会館 4階大ホール
参 加 者	36名
内 容	活動発表「わがまちサロンの取り組みについて」 ・辰巳台地区社会福祉協議会 ・東海小・中学校区小域福祉ネットワーク 情報交換「魅力あるサロンづくりについて語り合おう」
成 果	活動の充実に向けたグループワークを通じ、相互の交流や情報共有・交換等を行うことができた。
課題・方向性	交流会を通じ活動者の担い手不足という課題が大きく取り上げられたことから、ボランティアセンターと地区社協等が連携しながら活動者の育成方策（講座等の企画）の検討に努めることとしたい。

（5）ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るため以下の講座等を開催した。

①青少年ボランティア養成講座

青少年がボランティア活動について自ら考え、ともに知恵を出し合い、実践することで、青少年の自主性や主体性を育むとともに、地域活動やボランティア活動への参加意識の醸成を図ることを目的として実施した。

期 日	11月3日（土）、11月23日（金）
場 所	1日目：市原市社会福祉協議会 2日目：市原市立五井小学校
参 加 者	延63名
内 容	1日目：講義「市原市の災害リスクについて」 講師：地域防災マネージャー 内田豪氏 講義「災害時のボランティア活動について」 講師：NPO法人ゆかいな仲間たち 白尾克伸氏 演習「災害食体験」・「3・3・3ワークショップ」 講師：（公社）SL 災害ボランティアネットワーク千葉県ネット 坂内美佐子氏 （公社）SL 災害ボランティアネットワーク市原市ネット 沼野博氏 説明「災害ボランティアセンターの役割について」 市原市社会福祉協議会職員 2日目：災害ボランティアセンター立上げ運営訓練へ参加

②傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かして活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。

(共催：市原市五井公民館、傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま)

期 日	9月2日(日)、16日(日)、23日(日) [全3回] ※希望者のみ体験実習に参加
場 所	市原市五井公民館
参 加 者	一般市民 延べ114名、関係者 32名
内 容	講義及び演習 講師：東京情報大学総合情報学科 教授 田邊 昭雄氏 その他、傾聴ボランティアグループへの加入促進

成 果	防災・減災、孤立防止などの地域課題に基づく講座開催により、地域活動やボランティア活動に関心を持つ方々の契機づくりに繋がった。
課題・方向性	地域課題、ニーズに応じた講座の企画の充実を図り、活動団体等と連携し継続的な活動を促すためのフォロー体制の確立に努めることとする。

(6) 福祉教育（ボランティア学習）の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

①出前講座

市民に対する福祉教育（生涯学習）の一環として、市内の学校・各種団体・機関からの要請に応じて講座を開催した。

年 度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
H30 度	17 団体	0 団体	5 団体	22 団体
H29 度	19 団体	1 団体	6 団体	26 団体
増 減	△2 団体	△1 団体	△1 団体	△4 団体

成 果	市内の小、中学校での開催が多数を占めている。受講後には地域貢献として地域での活動を実践する学校等も見受けられ、徐々に講座の成果が表れている。
課題・方向性	既存グループの協力により実施しているが、活動者も高齢化し派遣先の拡充にも限界が生じている。今後は地区社協や小域福祉ネットワーク関係者等にも積極的に協力いただき、新たな人材の確保と次世代の担い手の育成に地域ぐるみで取り組めるような企画に努めたい。

(7) 災害ボランティア活動関連

災害時におけるボランティア活動が円滑に行われるよう、災害ボランティア活動の基盤整備・環境整備の促進を図った。

①市原市災害ボランティア活動連絡調整会議

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期 日	1回目 9月12日(水) 3回目 11月14日(水)	2回目 10月12日(金) 4回目 12月20日(木)
場 所	市原市社会福祉協議会	
内 容	1回目 ①平成30年度青少年ボランティア養成講座(案)について ②平成30年度災害ボランティアセンター設置運営訓練(案)について ③構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①平成30年度青少年ボランティア養成講座について ②平成30年度災害ボランティアセンター設置運営訓練について 3回目 ①平成30年度災害ボランティアセンター設置運営訓練について ②構成機関・団体の活動近況報告について 4回目 ①平成30年度青少年ボランティア養成講座について ②平成30年度災害ボランティアセンター設置運営訓練について ③構成機関・団体の活動近況報告について	

②災害ボランティアセンター設置運営訓練

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、関係団体の協力を得て災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施した。

期 日	11月23日(金・祝)
場 所	市原市立五井小学校
参 加 者	132名【学生28名(引率2名)、地域・団体関係者73名、職員29名】
内 容	「第2次配備からの災害ボランティアセンター設置運営訓練」及び「反省会」 協力団体：市原市ボランティア連絡協議会、(公社)SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、(公社)SL災害ボランティアネットワーク市原市ネット、市原市災害ボランティアネットワーク、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、NP0法人ゆかいな仲間たち、日本赤十字社千葉県支部、市原市役所危機管理課、市原市役所地域包括ケア推進課

③平成30年度市原市土砂災害避難訓練への参加 (※市原市の主催事業)

土砂災害への警戒避難体制を確立することを目的に、千葉県と共催で実施し、発災時における防災関係機関との連携体制の構築を図ることを目的に参加した。

期 日	6月2日(土)
場 所	市原市立有秋東小学校

④平成30年度市原市総合防災訓練への参加 (※市原市の主催事業)

市原市地域防災計画に基づき、発災時における防災関係機関との連携体制の構築、より多くの市民への災害ボランティア活動の意識醸成を目的に参加した。

期 日	9月2日(日)
場 所	市原市立湿津中学校
内 容	災害ボランティアセンター啓発チラシ配布

成 果	災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施や市総合防災訓練への継続的な参加を通じ、本会、ボランティアセンターの役割を再認識するとともに、各関係機関との連携強化に繋がった。
課題・方向性	災害時における本会、ボランティアセンターの役割、関係機関との連携体制の構築や取り組みなど訓練を通じ全職員が再認識し、併せてマニュアル等の見直しを図ることとする。

3. 地域福祉推進体制の強化

(1) 民生委員・児童委員との連携強化

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期 日		事 業 名	人数	場 所
月	日			
4	13	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	20	市民児協監査	5名	市社協
	27	市民児協第1回理事会	15名	市社協
		市民児協代議員会	42名	
5	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	22	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
6	18	南相馬市民児協との交流研修会	12名	市社協
	20	市民児協第1回主任児童委員部会	24名	市社協
	22	市町村民児協事務担当者会議及び事務局運営講座	1名	県社会福祉センター
	28	市民児協第1回地域福祉推進部会	22名	市社協
7	12～13	単位民児協会会長研修会	10名	鴨川ホテル三日月
	19	六市民児協会会長・副会長研修会	3名	八千代市
	25～26	全国主任児童委員研修会（東日本）	2名	新横浜プリンスホテル
8	10	市民児協第3回正副会長・部会長会議	4名	市社協
	24	市民児協全体研修会	286名	市民会館
	30	新任民生委員児童委員研修会	3名	県社会福祉センター
9	7	中堅民生委員児童委員研修会	86名	千葉市文化センター 木更津市民会館
	18	市民児協第4回正副会長・部会長会議	3名	市社協
	27～28	第87回全国民生委員児童委員大会	1名	沖縄県
11	9	第68回千葉県社会福祉大会	21名	千葉県文化会館
	21	市民児協第2回主任児童委員部会	20名	市社協
	20～21	民生委員児童委員講座	18名	君津市生涯学習交流センター 大網白里市保健文化センター
12	3	市民児協第2回地域福祉推進部会	18名	市社協
	10	市民児協第5回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	20	市民児協第2回理事会	13名	サンプラザ市原
		市民児協理事研修会	13名	サンプラザ市原
1	25	市民児協第1回主任児童委員部会検討会	7名	市社協
2	8	主任児童委員研修会	13名	千葉市民児会館
	12	市民児協第2回主任児童委員部会検討会	7名	市社協
	20	市民児協第3回地域福祉推進部会	20名	市社協
	22	市民児協第3回主任児童委員部会	18名	市社協
		相談技法研修会	11名	千葉市民会館
3	22	市民児協第4回地域福祉推進部会	16名	市社協
4月1日～ 3月31日		慶弔事業	8名	

成 果	市民児協の事務局として、各種会議、部会、研修会等の運営支援に取り組み、民生委員活動の資質向上及び活性化を図った。また、毎月開催される地区民児協定例会に地区担当職員が参加するなど、日常的な連携があり、民生委員との信頼関係が一層密になった。
課題・方向性	民生委員は、地域住民の身近な相談支援者であるとともに、地域福祉活動の推進役の一翼を担っており、今後も市社協との連携強化、充実を図っていく必要がある。また、地域共生社会の実現など地域福祉関連制度の動向を踏まえ、民生委員活動への期待も高まっていることから、本来の民生委員活動を基本とする関わり役割等のすみわけを整理し、目指す方向性の明確化が必要である。

(2) 共催・後援等事業

社会福祉施設・団体との連携強化をはかり協働活動を促進するため、次のとおり共催、後援及び協賛を行った。

事業名	期 日	会 場	実施主体及び内容
ちはら台保育園バス遠足	5 月 11 日	草ぶえの丘	<u>ちはら台保育園</u> 園児、保護者、職員の親睦を深めることを目的に実施した。
第 30 回キッズフェスタ in 市原	4 月 28 日	卯の起公園	<u>キッズフェスタ in 市原実行委員会</u> 育成団体 7 団体で実行委員会を組織し、子ども達に会場で楽しく過ごしてもらうために実施した。
一般公開ケース研究会	7 月 7 日	姉崎保健福祉 センター	<u>市原地区保護司会</u> 社会を明るくする運動の一環として、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ等をテーマに、犯罪や非行防止を目的に実施した。
平成 30 年度第 52 回 青少年のつどい市原市大会	8 月 19 日	ゼットエー 武道場他	<u>市原市青少年相談員連絡協議会</u> 次代を担う青少年が、スポーツを通じて相互の親睦と友情を深め、青少年としての自覚と誇りを高めると共に、健康な体力づくりを目指し、青少年の健全育成を目的に実施した。
平成 30 年度市原市 老人クラブ会員作品展	11 月 2 日 ～ 11 月 5 日	市原市 国分寺公民館	<u>市原市老人クラブ連合会</u> 老人クラブ会員の作品を公開展示し、地域住民に老人のもつ経験と技術の周知を図り、また、趣味活動を通じて親睦を深め高齢者の生活をより豊かなものにすることを目的に実施した。
第 20 回 特連文化フェスティバル・ 市原市特別支援教育振興大会	12 月 6 日	市原市 市民会館	<u>市原市特別支援教育研究連盟</u> 市原市内小中学校特別支援学級及び千葉県特別支援学校に在籍する児童生徒が、日頃行っている学習や文化的活動を発表し、各学校間、地域間の交流を目的に実施した。
市原刑務所慰問 市原学園成人式	毎月	市原刑務所 市原学園	<u>市原地区更生保護女性会</u> 更生保護女性会の 7 支部が月別に誕生会を祝し、慰問を実施した。
重度障がい者もできる 「バリアフリースポーツ」 教室	毎月	三和コミュニテ ィセンター他	<u>市原市中心身障害者福祉団体連絡協議会</u> 地域の障がい者・高齢者・子どもたちが共にスポーツを楽しみ、スポーツを通じて明るい仲間作りができることを目的に実施した。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成26年4月1日～平成31年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	平成27年4月1日～令和2年3月31日
姉崎保健福祉センター	平成28年4月1日～令和3年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、保健師による健康相談や血圧測定、市原警察署による交通安全指導の実施、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名							期 日							
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)							毎月1回							
各種講座	大正琴						第2・第4水曜日							
	書道						第1・第3金曜日							
	生け花						第2・第4木曜日							
	アートフラワー						第1木曜日							
	絵てがみ						第1月曜日							
	囲碁会						毎週火曜日							
	ゲートボール						休止							
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人 クラブ	団体数	14	15	10	10	9	14	13	12	12	12	14	11	146 団体
	人数	297	251	134	159	113	266	251	190	181	245	206	156	2,449 名
一般 団体	団体数	16	15	16	16	13	18	20	18	17	15	16	19	199 団体
	人数	225	233	225	208	202	239	261	249	242	227	224	243	2,778 名
団体 合計	団体数	30	30	26	26	22	32	33	30	29	27	30	30	345 団体
	人数	522	484	359	367	315	505	512	439	423	472	430	399	5,227 名
個人人数		1,877	1,914	1,874	1,800	1,826	1,525	1,929	1,869	1,621	1,590	1,630	1,762	21,217 名
総合計		2,399	2,398	2,233	2,167	2,141	2,030	2,441	2,308	2,044	2,062	2,060	2,161	26,444 名

① 月別利用状況

① 月別利用状況

② 利用状況前年度比較

区分	団 体 数		前年度 比較増減	人 数		前年度 比較増減
	30年度	29年度		30年度	29年度	
老人クラブ	146 団体	149 団体	△3 団体	2,449 名	2,678 名	△229 名
一般団体	199 団体	169 団体	30 団体	2,778 名	2,410 名	368 名
個人				21,217 名	23,102 名	△1,885 名
合計	345 団体	318 団体	27 団体	26,444 名	28,190 名	△ 1,746 名

成 果

高齢者の健康意識が高く、ラジオ体操や踊りに参加する方が多くなってきており、健康寿命を延ばすことに役立っている。また、通いの場活動に場所を提供するなど、地域との連携も深まってきている。

課題・方向性	浴室の利用者の減少が顕著であり、全体の利用者の減少につながっている。健康器具など施設の充実や新たな施策の展開などにより利用促進を図っていく必要がある。
--------	---

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的にを行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
体育室	2,345	2,285	2,836	2,702	2,519	2,975	4,145	2,968	2,378	2,054	2,410	3,172	32,789	33,850	△ 1,061
ボランティアルーム	498	479	677	581	514	516	833	546	411	769	423	591	6,838	6,428	410
実習室	307	396	417	370	293	311	673	435	302	807	351	319	4,981	4,288	693
調理実習室	18	18	81	50	42	38	80	50	134	40	71	96	718	778	△ 60
研修室	929	991	956	1,163	902	999	1,508	1,169	822	918	840	2,246	13,443	14,712	△ 1,269
多目的ホール	755	856	793	872	638	861	1,119	1,092	431	610	621	729	9,377	9,792	△ 415
ゲートボール場	26	42	111	25	6	13	14	196	0	10	35	5	483	362	121
相談室	46	44	58	64	48	45	50	87	38	33	78	72	663	805	△ 142
合計	4,924	5,111	5,929	5,827	4,962	5,758	8,422	6,543	4,516	5,241	4,829	7,230	69,292	71,015	△ 1,723

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
ニコニコキッズ	5月21日 7月23日 9月10日 11月19日 12月10日 1月21日 3月18日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、地域の親子が交流を図り情報交換を行う等の子育ての支援を行うことを目的として実施した。	483名
世代間交流事業 卓球教室	7月28日 7月29日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	131名
バリアフリー スポーツ教室	6月24日 7月22日 8月26日	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。	107名
昔あそび	4月22日 8月10日 10月9日 3月27日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	244名
アネッサ発 クリーン大作戦	10月20日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	205名
初めての手話入門	6月～8月 (全10回)	市民に対し、障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者の手話入門講座を実施した。	111名

チャレンジ 夏休みの課題	8月 8日 8月 9日 8月10日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館及び青少年会館と共催） ※8月8日、9日は台風のため中止	25名
グランドゴルフ大会	9月 9日	体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。（体育振興会と共催）	44名
普通救命講習	5月15日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	9名
施設内美化活動	4月 7日 5月12日 6月23日 9月15日 10月20日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。（雨天のため1回順延）	108名
自主防災講習会	6月 (全4回)	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取り組みについて学ぶことを目的として実施した。	329名
ポヨポヨ救急法	10月 1日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 協力：姉崎消防署	65名
ボランティア 活動紹介	7月1日 ～7月31日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	13グループ
サークル活動紹介	10月	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがい活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	24グループ
レコード交流会	4月～3月 (全12回)	レコード鑑賞（茶話会）を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。	286名
おもいっきり体育室	6月23日 8月10日 12月 1日 3月23日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催）	197名

成 果	児童館や地域の各種団体等との共催で事業を行うことで、内容の充実や参加者数の拡充を図ることができた。また、保健福祉センターの特性を活かしたさまざまな事業を行うことで、高齢者、児童、障がいのある方などが相互理解を深め、交流を図ることができた。
課題・方向性	平成29年10月の有料化以降、使用料の高い部屋の利用者数が減少を続けている。また、研修室のパーテーション故障により、利用できる団体数も必然的に制限せざるを得ないことから、利用実績にも影響を及ぼしている。利用料減免団体との調整や市との調整を引き続き行っていきたい。

② 老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
大広間	団体	32	24	32	40	32	34	70	32	24	24	32	32	408	618	△ 210
	個人	940	960	1,018	927	1,005	944	987	1,000	815	838	847	1,033	11,314	12,586	△ 1,272
和室		60	120	92	112	61	95	118	88	42	100	140	100	1,128	2,195	△ 1,067
男性浴室		769	773	779	654	749	538	448	806	707	745	523	866	8,357	11,549	△ 3,192
女性浴室		371	346	322	232	247	198	190	362	344	325	255	414	3,606	6,392	△ 2,786
合計		2,172	2,223	2,243	1,965	2,094	1,809	1,813	2,288	1,932	2,032	1,797	2,445	24,813	33,340	△ 8,527

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
ヨガ教室	4月～6月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けのヨガ。 講師：鈴木 なぎさ氏	118名
手芸教室	6月～7月 (全2回)	ちりめんて吊るし毬を作る。 講師：小澤 よし子	19名
一文字書を楽しむ 書道教室	5月～6月 (全4回)	色紙に好きな一字を書く。 講師：大野 蘭秀氏	23名
健康吹矢教室	1月～3月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康吹矢。 講師：田中 博之氏	49名
ほのぼのダンス・ ストレッチ教室	7月～9月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的としたストレッチ体操等。 講師：垂 三枝子氏	510名
絵手紙教室	11月～2月 (全10回)	絵手紙の基本について学んだ。 講師：東 洋子氏	128名
そば打ち教室	12月 (全1回)	市原産のそば粉を利用したそば打ち。 講師：斉藤 忠夫氏	7名
60歳からの健康 体操教室	2月～3月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康体操。 講師：有山 貴子氏	135名
折り紙教室	5月 (全2回)	広告紙を使用して小箱作り。 講師：福田 進一氏	10名
ヨガ教室中級	11月～12月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした経験者向けのヨガ。 講師：鈴木 なぎさ氏	48名
メンズキッチン	1月～2月 (全2回)	男性を対象とした料理教室。 講師：市原市食生活改善協議会姉崎支部	18名
中国水墨画教室	10月 (全4回)	初心者向けの中国水墨画教室 講師：陳 珂氏	42名
ラベンダーポプリとバン ドル作り教室	6月 (全2回)	旬のラベンダーを使ってポプリとバンドルを製作 講師：西村 美和子氏	15名

成 果	利用者アンケートで人気の高かった講座を継続・拡充することで前年度より多くの参加者を得ることができた。また、市の広報や地域の情報紙、ホームページなど様々な媒体を活用し広く市民に呼びかけることで、事業目的である高齢者の交流促進や健康寿命を延ばすためのきっかけ作りに寄与することができた。
課題・方向性	平成29年10月からの有料化による貸室及び浴室の利用回数の減少や高齢化による来館者数の減少が続いている。また、それに伴い、休憩スペースにもなっている大広間の個人利用者数も減少の傾向が見られる。利用促進のための広報活動を積極的に行う必要がある。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
児 童	575	550	733	645	685	642	675	556	582	441	491	777	7,352	8,747	△1,395
保護者	446	477	594	477	459	551	702	463	479	355	376	586	5,965	7,153	△1,188
合 計	1,021	1,027	1,327	1,122	1,144	1,193	1,377	1,019	1,061	796	867	1,363	13,317	15,900	△2,583

イ) 子育て支援事業(ポヨポヨクラブ・のびのびクラブ・ひよこクラブ)「毎週火・木・金曜日」・ふたごっちクラブ「毎月第1水曜日」(8月は学童夏休みの為ポヨポヨクラブ、ふたごっちクラブのみ実施)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
ポヨポヨクラブ	240	257	241	248	183	230	177	252	136	204	191	326	2,685	2,875	△190
のびのびクラブ	135	128	144	76		172	93	169	119	119	147	210	1,512	2,217	△705
ひよこクラブ	158	207	220	129		191	62	175	62	124	133	59	1,520	2,110	△590
ふたごっちクラブ	20	14	20	17	14	26	6	16	12	0	0	13	158	219	△61
合 計	553	606	625	470	197	619	338	612	329	447	471	608	5,875	7,421	△1,546

幼児を持つ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図るために実施した。毎月第1水曜日は、多胎児を持つ保護者を対象に「ふたごっちクラブ」として実施した。

ウ) 子育て支援事業 「毎週水曜日」(8月は学童夏休みの為中止)

ボランティアによる絵本の読み聞かせやリズム遊び等を取り入れた子育て支援を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
英語で遊ぼう	29	46	53	8		58	27	34	8	30	27	15	335	608	△273
ママといっしょ	24	56	36	26		35	51	27		26	33	27	341	387	△46
合 計	53	148	89	34	0	93	78	61	8	56	60	42	676	995	△319

エ) 企画事業「毎週土・日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
参加者	47	51	229	145	346	240	106	148	148	95	132	169	1,856	1,567	289

オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
登録者	7	4	5	8	15	11	6	6	1	9	4	6	82	96	△14
貸出(冊)	275	227	227	337	346	313	331	372	100	204	239	274	3,245	3,687	△442

カ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
アネッサ発 クリーン大作戦	10月20日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	205名
中高生による 子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなど。	460名
母親クラブ 「乳幼児の為の 救急法」	9月20日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	53名
アネッサ探検隊	7月 1日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏 ・ 田中 義和 氏	29名

おもいっきり体育室	6月23日 8月10日 12月1日 3月23日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。	197名
おもしろ実験教室	8月4日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。 講師：市原袖ヶ浦少年少女発明クラブ	30名
昔あそび	4月22日 8月10日 10月9日 3月27日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	244名
子育てクラブ 合同クリスマス会	12月19日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子供の成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	213名
食の推進 「料理教室」	12月8日 AM、PM	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	33名
食の推進 「食育座談会」	6月7日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市保健センター栄養士	55名
世代間交流事業 アネッサキッズ 卓球教室	7月28日 7月29日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(地域福祉センターと共催)	131名
ジャグリング 教室	10月21日 10月28日	創作活動であるジャグリングの発表の場としてジャグリング教室を実施した。 協力：市原 Jug Jug	36名
こども トールペイント教室	3月17日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	7名
母親クラブ 「ママのリフレッシュ講座」	10月31日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ママカフェ」を実施した。	14名
子育てクラブ合同 大運動会	10月24日	発育時期に分かれ実施している事業を合同にしてイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ね、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	151名
子育て座談会	5月31日 10月31日 1月29日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	84名
チャレンジ 夏休みの課題	8月8日 8月9日 8月10日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(地域福祉センター及び青少年会館と共催) ※8月8日、9日は台風接近のため中止	25名
キッズ ボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小学生から高校生までの学生ボランティアによる読み聞かせやイベントの手伝い、壁面装飾の手伝いを実施。	66名

成 果	乳幼児とその保護者向けの事業だけでなく、小中高生や大学生、地域のボランティアの協力など、幅広い年齢層の方たちとの交流を持つことで児童の健全育成を図ることができた。また、小中学生が読み聞かせ等を行うなど、ボランティア意識の向上と育成に努め、多くの参加者が得られた。
課題・方向性	子育て支援事業の参加者数減少により、全体的に利用実績が大幅な減少傾向にあるが、認定子ども園や幼稚園のプレ保育など、市内の保育サービスが充実したことが理由の一つとして想定される。一方で単発または短期間で実施する事業への参加者は増加の傾向にあるため、利用者アンケート等を活用し、ニーズにあった事業の検討が必要と思われる。

(3) 三和保健福祉センター管理運営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的にを行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
ボランティアルーム	431	492	472	416	297	297	487	330	334	337	287	378	4,558	4,399	159
研修室	275	308	275	265	193	286	419	216	223	222	214	317	3,213	3,017	196
多目的ホール	815	828	908	801	696	794	778	644	640	712	640	758	9,014	8,910	104
創作活動室	108	133	97	149	135	122	265	163	69	123	96	95	1,555	1,896	△ 341
合 計	1,629	1,761	1,752	1,631	1,321	1,499	1,949	1,353	1,266	1,394	1,237	1,548	18,340	18,222	118

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参 加 者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の運営により実施した。また、七夕やクリスマスなどのイベントやおばけ屋敷等を実施した。	685名
ふれあいいいきサロン	4月～3月 (毎月第3月曜日)	三和地区在住の65歳以上の方を対象に、趣味活動や健康体操等を実施し、住民同士の交流やつながりを深め、高齢者の孤立化と寝たきりの予防を図った。 講師：大前陽子氏	55名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜日)	障がい児者を対象としたボランティアによる絵画教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	72名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターとボランティアの協力を得て実施した。	722名
おひさまひろば	4月～3月 (毎月第1月曜日)	地域の親子がボランティアと一緒に遊べる場を提供するとともに子育ての悩み相談や情報提供を行った。 11月6日 「ベビーダンス教室」実施 6月5日、2月5日 「ピラティス教室」実施	134名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木曜日)	ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。	48名
歌声喫茶	7月18日 9月19日 11月22日	地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、サンハート利用団体に対して活動の披露の場を提供した。	126名
さんさんクリーン大作戦	11月25日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことにより、交流を図りながら地域の環境美化を实践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、サンハート周辺のごみ拾いを実施した。	77名
サンハートまつり	1月27日	地域住民の交流を図るとともに、サンハートの周知、利用活性化を図ることを目的として、作品の展示会、舞台での発表会などを実施した。	297名

サンハート寄席	2月27日	高齢者や障がい者、乳幼児親子等の地域住民を対象に、講談と伝統芸能を披露する寄席を実施した。	45名
市民講座	5月19日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。	10名
	6月30日	「認知症サポーター養成講座」を受講した方を対象に、認知症サポーターとしてのあり方や参加者の意識高揚を図るためにオレリン会ミーティングを実施した。	21名

成 果	有料化になり施設利用減が懸念されたが、昨年度よりは貸室利用者が増加している。「サンハートまつり」、「さんさんクリーン大作戦」等の地域交流事業においては、昨年度同様に地区社協やネットワークの参加協力を得ることができ、また、日頃当センターを利用しているサークルの方々の積極的な参加により、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。
課題・方向性	貸室利用者は増加しているが、料金の高い貸室については減少しており、目的にあった貸室利用を促していく。事業については、地区社協、ネットワークの方々やセンター利用者の協力が不可欠である為、今後も引き続き信頼関係を図り、事業参加に繋げる。

② 老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H29度	増減
大広間(団体)	21	0	0	0	8	0	0	0	3	23	51	3	109	282	△ 173
大広間(個人)	292	314	323	441	453	303	312	353	316	599	373	455	4,534	3,454	1,080
和室	66	38	42	40	44	38	77	45	56	84	40	52	622	720	△ 98
男性浴室	857	803	857	916	913	812	1,041	611	695	801	794	908	10,008	11,013	△ 1,005
女性浴室	453	418	463	419	469	474	564	342	399	475	481	510	5,467	6,408	△ 941
生活相談室	44	58	78	50	37	50	56	36	46	18	31	38	542	565	△ 23
合計	1,733	1,631	1,763	1,866	1,924	1,677	2,050	1,387	1,515	2,000	1,770	1,966	21,282	22,442	△ 1,160

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参 加 者
気功体験教室	6月5、12、19、26日(4回)	健康維持と仲間作りを目的として、気功体験教室を実施した。 講師：上久保治子氏	60名
健康体操教室	5月9、16、23、30日、10月3、10、17、24日(8回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：大前陽子氏	126名
茶の湯体験教室	10月4、11、18、25日(4回)	茶の湯体験を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：白川ますみ氏	39名
ヨガ教室	7月18、25日 8月1、8、15、22日(6回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川佳子氏	70名
フラワーアレンジメント教室	1月25日(1回)	フラワーアレンジメントを通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：茂木朋美氏	13名

笑う健康教室	9月11、18日、10月2、16日（4回）	健康維持と仲間作りを目的として、ラフターヨガ教室を実施した。 講師：塩本京子氏	35名
一文字書教室	11月1、8、15、22日（4回）	書道を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：大野文子氏	42名
絵手紙教室	7月17、24日、11月12、19日（4回）	絵手紙を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：向井艶子氏	42名
シニア向け健康づくり教室	2月5、12日（2回）	健康維持と仲間作りを目的として、シニア向け健康づくり教室を実施した。 講師：市原市体育協会	38名
楽しく俳句教室	6月2、9、16、23日（4回）	俳句を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：木村孝一氏	40名
ポールを使ってウォーキング教室	6月4、11日（2回）	健康維持と仲間作りを目的として、ポールを使ってウォーキング教室を実施した。 講師：市原市体育協会	14名
シニア向け腰痛対策教室	12月4、11、18日（3回）	健康維持と仲間作りを目的として、シニア向け腰痛対策教室を実施した。 講師：梅津行二氏	48名
健康寿命を延ばそう教室	2月19日（1回）	健康講話を通じて高齢者に健康づくりと交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：豊留富美氏	19名

成 果	事業については、アンケート結果でも要望が多く寄せられている高齢者の健康づくりに焦点を当てた事業（「シニア向け腰痛対策教室」「ポールを使ってウォーキング教室」）を今年度より実施し、サークルの立上げにも結びついた。また教養講座の男性の参加者が少なかった為、男性にも参加しやすい講座として「俳句教室」を企画し、男性参加者も多く好評のうちに終わった。
課題・方向性	施設の有料化や利用者の高齢化の他、機械設備の故障により浴室を長期的に休室したことから大幅な利用者減になっている。今後も機械設備の点検の徹底、故障に対する早期対応を図っていく。事業については、今後もアンケート結果を反映させた事業実施を行うと共に、参加者の少ない教養講座については、事前の周知や広報を行い、参加者の増加に繋げる。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H29度	増減
児童	511	419	495	712	830	581	545	402	368	330	413	571	6,177	7,266	△ 1,089
保護者	370	333	376	491	521	462	430	309	261	265	313	331	4,462	4,894	△ 432
計	881	752	871	1,203	1,351	1,043	975	711	629	595	726	902	10,639	12,160	△ 1,521

イ) 子育て支援事業

ア) さんさんくらぶ・きらきらくらぶ「毎週火・金曜日」

乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者	209	171	211	290	250	222	233	186	124	157	152	212	2,417	2,572	△ 155

b) よちよちくらぶ「毎月第1・4水曜日」

11ヶ月から1歳6ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者	12	6	14	23	17	24	22	28	16	4	24	8	198	234	△ 36

c) あかちゃんくらぶ「毎週木曜日」

3ヶ月から10ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者	46	41	16	28	37	57	50	48	15	13	25	30	406	532	△ 126

d) 英語で遊ぼう「毎月第3水曜日（学校の長期休暇期間を除く）」

幼児と保護者を対象とし、英語の歌に合わせた踊りや、手遊びなどを通じた親子のふれあいを目的としたボランティアによる子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者(組)	12	10	14	4	12	6	8	7	4	9	86	67	19		

ウ) クラフト&プレイ「毎週日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者	29	18	40	65	38	44	33	40	20	40	49	22	438	761	△ 323

エ) 児童館ボランティアクラブ

児童を対象に、ボランティアの育成を目的として、児童館ボランティアクラブに登録してもらい、パネルシアターの作成、発表会を行った。

期 日	内 容	参 加 者
8月21,24日	子育て支援イベントにおいて、パネルシアターの発表および大型絵本の読み聞かせ	5名
3月9日	高齢者施設「三和の里」において、パネルシアターおよび大型絵本の発表	1名

オ) 放課後クラブ「毎週火～金曜日（学校の長期休暇期間を除く）」

小学生の放課後の居場所づくりを目的とした工作教室等。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
参加者	22	15	8	19	28	9	16	31	18	14	66	246	99	147	

カ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
新規登録者	13	6	12	16	18	9	8	10	4	9	1	5	111	113	△ 2
貸出(冊)	214	209	331	352	439	379	315	316	201	250	234	212	3,452	2,913	539

キ) 年間事業実施状況

事 業 名	期 日	内 容	参 加 者
グリーンガーデン	7月～8月	花の種蒔き及び水やり(児童館脇のウッドデッキに朝顔のグリーンカーテンを設置)	25名
ベビーマッサージ教室	6月7,21日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	24名
人形劇	5月18日 12月11日	「グループともだち」による人形劇上演 「とんとん」による人形劇上演	39名 27名
夏休みクラフトバンドで作るミニカゴ作り教室	7月26日	クラフトバンドでミニカゴを作る 講師：ポシェット	10名

夏休み子ども布ぞうり教室	8月4日	タオルで布ぞうりを作る 講師：宍倉春江氏	7名
夏休み子ども絵手紙教室	8月16日	はがきとエコバックに絵手紙を作成 講師：向井艶子氏	7名
親子ベビーヨガ教室	9月7日	親子で体験 講師：篠宮方美氏	12名
知って良かったママの救急法	10月19日	乳幼児のケガや誤飲などの手当の仕方実技指導 講師：市原市中央消防署員	25名
世代間交流事業	9月21日	ボランティアによる読み聞かせ	38名
	11月6日	〃	25名
	12月7日	オカリナサークルによるオカリナ演奏	37名

成 果	各事業ごとに参加者は定着してきており、実施回数の増加を要望する声も聞かれる。
課題・方向性	児童館利用者について減少の傾向にある為、需要に沿った事業を企画しながら広く市民に周知し、利用者の増加に繋げる。

④ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H29度	増減
研修室	482	550	431	474	434	696	401	299	319	537	364	443	5,430	5,475	△ 45
プレイルーム	439	356	498	567	532	537	511	564	462	372	440	462	5,740	6,362	△ 622
障がい者談話室	439	356	498	567	532	537	511	564	462	372	440	462	5,740	6,362	△ 622
療育相談室	51	54	85	48	100	31	81	66	46	105	16	47	730	624	106
合 計	1,411	1,316	1,512	1,656	1,598	1,801	1,504	1,493	1,289	1,386	1,260	1,414	17,640	18,823	△ 1,183

(4) 南部保健福祉センター管理運営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
ボランティアルーム	146	177	120	284	315	332	137	147	120	60	138	140	2,116	2,463	△ 347
調理実習室	24	22	20	25	46	52	42	48	36	67	43	21	446	480	△ 34
多目的室	619	1,095	928	729	852	1,464	898	1,448	587	536	662	659	10,477	11,190	△ 713
創作活動室	19	187	216	168	34	263	38	156	19	7	21	27	1,155	1,180	△ 25
会議室②	87	248	292	196	119	312	75	212	88	92	74	78	1,873	1,803	70
合計	895	1,729	1,576	1,402	1,366	2,423	1,190	2,011	850	762	938	925	16,067	17,116	△ 1,049

イ) 年間事業実施状況

事 業 名	期 日	内 容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	7月23、30日 8月6、20日	市内在住の就学前の児童を対象に、子育てしている保護者やそのお子さまが同じような仲間と交流できる憩いの場を設け、親子のふれあいなど、地域福祉の推進を図った。 協力団体：南総地区民生委員児童委員協議会 市原市更生保護女性会南総支部	117名

子育て支援事業 (子どもフェスタ)	8月26日	小学校入学前の児童とその家族を対象に、親も子も楽しむことができる遊びと交流の場を提供し、地域福祉の推進を図った。 協力団体：南総・加茂子育て家庭支援員協議会 南総地区社会福祉協議会、南総消防署	262名
ふれあいサロン事業	9月18日 10月18日 11月20日 12月08日 1月15日 2月20日	在宅介護をしている方または介護の経験のある方、また将来介護に不安のある方を対象に、楽しい仲間づくりや交流の場を提供した。 協力団体：市原市地域包括支援センター トータス 伊藤整体療術院	127名
地域交流事業 (歌声喫茶)	5月9日 9月27日 12月12日	生演奏による音楽を通じて参加者全員が一緒に歌うことにより、相互のふれあいや交流を図った。 協力団体：チャーリーウクレレクラブ アコーデオンいちはら	179名
世代間交流事業 (昔あそび)	8月26日 2月24日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的に実施した。 協力団体：いちはらシルバー友の会 牛久、内田小学校区小域福祉ネットワーク	326名
障がい者交流事業 (ボッチャ)	3月1日	障がいのある方が自らを理解してもらうことにより、障がい者同士の交流やボランティアの方々や地域住民とのこころのふれあいを目的に実施した。 協力団体：市原市肢体不自由児者父母の会	66名

成 果	地域福祉関係団体の活動の場として、各種事業の中で連携した取組みを行った。また、子ども、高齢者、障がいの有無を問わず、様々な方々が交流できる場の提供及び相談支援による地域の窓口となるよう努めた。
課題・方向性	施設も5年目となることから適切な設備メンテナンスに心掛け、利用者の安全管理に努める。また、地域支援の場として、福祉団体との連携を密にし、人材の育成等に繋がる講座等の事業を展開し、地域力を高められるように努める。

② 中高年健康増進施設

地域の中高年齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
健康増進施設	3,528	3,155	4,137	4,163	4,191	3,545	3,792	3,391	2,410	2,967	3,117	3,239	41,635	48,917	△ 7,282

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
安全講習会	通年	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	226名
水中ウォーキング	毎月1回(月曜日)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、安全且つ効果的な水中ウォーキングを学ぶとともに、健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。	216名
月例講習会	毎月1回(月曜日)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、介護予防と生活習慣の改善及び健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	71名

成 果	利用者が参加しやすいような教室の運営とインストラクターによる効率的な運動指導に努めた。
課題・方向性	市民への積極的なPR活動を展開するとともに、利用者の活動意欲に繋がるような指導を取り入れて使用促進に努める。

③ 老人福祉センター

健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
大広間(団体)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
大広間(個人)	347	384	355	369	364	312	381	374	347	345	335	367	4,282	3,166	1,116
和室	8	24	6	24	40	20	0	30	15	0	3	3	173	491	△ 318
合計	355	410	361	393	404	332	381	404	362	345	338	370	4,457	3,657	800

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康寿命を延ばす料理教室	9月19日 11月21日 2月6日 (全2回)	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋裕子 氏	60名
健康体操教室	7月～11月 (全10回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：山口 紀美代 氏	216名
ヨガ教室	5月～10月 (全16回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	354名
ハーモニカ教室	6月～7月 (全5回)	ハーモニカを通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：高松 洋子 氏	70名
囲碁クラブ	12月～2月 (全10回)	囲碁という趣味を通して、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：森 重文 氏	70名
太巻き寿司教室	10月23日 1月23日(中止) (全2回)	巻き寿司という料理を通して、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏	12名
エンジョイ・ボール・エクササイズ	2月13, 20, 27日 3月6日 (全4回)	ボールエクササイズという運動を通して、交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：根本 壽美子 氏	64名
茶道教室	7月～8月 (全4回)	茶道を通して、交流の場を提供することで高齢者福祉の推進を図る。 講師：坂野 操 氏	21名
健康カラオケ教室	1月～2月 (全2回)	カラオケという趣味活動を通して、参加者の交流の場を提供することで、地域の福祉推進を図る。 講師：関氏 彰 氏	17名
ノルディックウォーキング体験教室	1月24日	体を動かすことで基礎体力の維持、増進を助長し健康で生きがいのある生活へと繋げることを目的としてノルディックウォーキングを実施した。 講師：市原市体育協会 秋葉 氏	15名

成 果	利用者の方への分かりやすい情報提供に心掛け、健康講座、教養講座等のPRに努めた。また、老人福祉センター相談事業として、情報提供、各種相談等、高齢者の生活支援を行った。
課題・方向性	高齢者の介護予防を図り、高齢者同士のふれあいと活動の場となるような新たな講座も開拓し、更なる高齢化社会に対応した効果的な事業展開を図る。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
児 童	268	230	317	447	577	364	299	288	252	221	272	414	3,949	3,842	107
保護者	216	212	254	355	487	328	275	245	222	199	234	311	3,338	3,026	312
合 計	484	442	571	802	1,064	692	574	533	474	420	506	725	7,287	6,868	419

イ) 子育て支援事業

a) あかちゃんくらぶ『ほっぷ』 「毎週金曜日」

3ヶ月から1歳頃の乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
参加者	64	63	70	103	129	80	107	74	66	45	70	107	978	778	200

b) ちびっこくらぶ『すてっぷ』 「毎週水曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
参加者	87	116	130	147	120	195	159	90	120	101	122	110	1,497	1,252	245

c) 親子クラブ『じゃんぷ』 「毎週土曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
参加者	67	54	88	74	71	94	54	58	61	72	50	101	844	729	115

ウ) つくってあそぼう (クラフト&プレイ) 「第1・3日曜日」

児童自らの手で作り、描いたもので遊ぶことで情操を豊かにし、創作の楽しさを味わうことを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
参加者	24	34	51	61	44	62	30	36	35	24	40	68	509	207	302

エ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
登録者	17	5	13	22	13	17	3	7	3	6	5	18	129	165	△36
貸出(冊)	164	130	130	247	262	145	208	157	49	133	158	299	2,082	1,994	88

オ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
年長児来館促進事業	8月26日 1月27日	来館する中・高生から活動に関する相談に応じ、支援を行うとともに、環境美化と情操教育を図ることを目的として実施した。	13名
自然観察会 「なのはな探検隊」	5月12日 7月29日	自然に親しむことにより、自然を大切にし、情操を豊かにすることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏 講師：鶴岡 清次 氏	44名
おはなし会 人表劇	8月 8日 9月12日 11月27日 12月19日	「ぐりとぐら」によるおはなし会 「ぞうさんのほうき」による人形劇上演 児童厚生員とボランティアによるおはなし会 児童厚生員によるおはなし会	25名 75名 23名 39名
親子参加型講習会 「ごみの減量とリサイクル」	8月22日	身近なごみの減量とリサイクルの方法を、わかりやすく習得することを目的として実施した。 講師：市原市・クリーン推進課	22名

親子参加型講習会 「ママのためのハッピー・ハロウィン」(ママのリフレッシュ)	10月25日	幼児を持つ母親を対象に、参加者全員が仮装して、ハロウィンに関するパネルシアターや工作やダンスを実施した。	26名
親子参加型講習会 「親子で遊ぼう」(親子体操)	9月20日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	24名
親子参加型講習会 「ベビーマッサージ」	11月2日	幼児を持つ母親を対象に、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、ベビーマッサージを実施した。 講師：渡邊 徳子 氏	16名
キッズクラブ	7・8月 (全11回)	夏休み期間中に、未就学児や小学生とその保護者を対象に、家庭でも楽しめる簡単なゲームや絵本の読み聞かせなどを実施した。	126名
世代間交流事業 「昔あそび」	8月26日 2月24日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、理解を深めることを目的として昔あそびを実施した。 協力：牛久、内田小学校区小域福祉ネットワーク いちほらシルバー友の会	326名
親子料理教室	1月20日	食育の一環として、子供たちに料理を作る楽しさを知ってもらうことを目的に、親子料理教室を開催した。 講師：市原市食生活改善推進協議会	15名

成 果	工作や遊びを取り入れることで、情操を豊かにし、子ども達の健全育成を図ることができた。また、保健師や地域との協働により、子育てに関する相談の充実を図ることで、育児不安の軽減となり子育て家庭の支援に努めた。
課題・方向性	より幅広い年齢層に利用していただけるように、小・中学校と連携を図りながら、学生のボランティアの育成など、地域における子どもの拠点となるよう各種団体と検討する。

④ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H29度	増減
障がい者交流室	28	197	245	145	24	327	58	185	93	53	58	35	1,448	513	935
会議室①	170	433	345	407	214	500	110	350	188	151	232	272	3,372	8,210	△4,838
合計	198	630	590	552	238	827	168	535	281	204	290	307	4,820	8,723	△3,903